

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ホスピタリティⅠ			吉田訓代		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

日本航空客室乗務員での接客経験がある講師が、社会人として必要なビジネスマナー・接客マナーをオンライン講義形式・オンラインロールプレイング形式で実施する。

☐ 授業科目の概要

良い人間関係を築くためのコミュニケーションのポイントに加え、社会人にとって必要なマナーの知識を確認し、それらの学習成果を認定するコミュニケーションマナー検定を受験し、合格する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	コミュニケーション上手になるために	自分を知る 自分のコミュニケーションスタイルを確認する
2	好感度を高めるためのポイント	表情と笑顔 姿勢 服装や身だしなみ 態度や振る舞い
3	聴き方や話し方を見直す	傾聴のポイント 話し方や言葉遣いに配慮する 上手な気持ちの伝え方
4	食事の席での心得	食事の席で大切なこと 食具の種類と歴史 レストランでのマナー 箸使いについて
5	外出時の心得	公共の場での振る舞い 訪問先でのマナー あらたまった席での振る舞い
6	社会人として知っておくべきこと	日本や日本人について考えてみる 日本社会の特徴 多様性を受け入れる
7	社会人必須のマナー	ビジネスマナーの基本 ビジネス文書の書き方 電話応対 名刺交換 席次のルール
8	祝儀・不祝儀袋の贈り方	祝儀袋・不祝儀袋の用途 水引の種類 表書きの書き方 紙幣の入れ方
9	国際交流とプロトコル	国旗について 異文化コミュニケーションの注意点 世界の宗教
10	人生のイベント季節のイベント	誕生 お七夜 お宮参り お食い初め 七五三 厄年 長寿のお祝い お正月 節分 ひな祭り お花見などの年中行事について
11	検定模擬試験	
12	コミュニケーションマナー検定	今まで学んだことの理解力を試す
13	サービス接遇検定対策	サービス接遇検定2級過去問演習実施
14	サービス接遇検定対策	サービス接遇検定2級過去問演習実施
15	サービス接遇検定対策	サービス接遇検定2級過去問演習実施

☐ 到達目標

社会人になって最も大切なコミュニケーションについて確認し、コミュニケーション検定合格をめざす

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題30% 出席状況・授業態度20%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	ビジネスコミュニケーションⅠ（キャリア基礎）			扇谷美里		
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

- ・自分自身を理解し、将来像を考えることで、今、そしてこれから取り組むべきことを明確にする。
その内容に沿ったかたちで講義を進めて、対外コミュニケーションスキルを上げ、後期の業界EXPO、本格的な就職活動につなげる。
- ・「過去の自分」をもとにした「自己PR」を完成させる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	オリエン、自己紹介	半期の流れの説明及び、学生の自己紹介を行う。
2	学校を知る・学科を知る	学校の特長や学科の各授業が、どういった資格につながり、卒業後、どうなっていくための授業なのか、2年間、もしくは3年間の学びについて紹介する。
3	コミュニケーションゲーム （他人から見た自分）	クラスメイトから見た自分と、自身が思っている自分のイメージの違いを認識し、これから行う自己PR（長所）の作成に役立てる。「You are シート」を作成し、他己紹介を行い、スピーチトレーニングの要素を含める。
4	自己理解	マイカンパニーの概要に触れてから冊子のP.7～P.13の個人ワークを行う。その後、ペアになりお互いのことを発表。「話して気づいたこと」「聞いて心が動いたこと」をP.14のシートに記入。その内容も踏まえつつ、個人ワークで「自分史シート」「I am シート」を作成し、自身の強みを知り、なぜそれが身に付いたかをさらに掘り下げて考える。
5	キャリアプランニング	「将来デザインシート」「目標設定シート」を作成し、自身のざっくりとした将来像を考え、そのために必要なもの、今からできることを考える。そこで出てくるものが想定されるものが、第5回以降の授業で学ぶ内容とリンクしていく。
6	対外コミュニケーション①	対外コミュニケーションで必要となることを、例を挙げて解説。ロールプレイングを含めても良い。（例：「会社説明会に参加する」⇒入口でコートは脱ぎ、説明会の聞き方、メモは、質問は、終了後は、など）
7	対外コミュニケーション②	対外コミュニケーションで必要となる、採用担当者への文章の書き方やメール作成の仕方を考える。
8	<自己分析①> 自己PRにつなげる	前回までに取り組んだことを活かして、「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」を考える。
9	<自己分析②> 自己PRを作成する	前回までに取り組んだことを活かして、「自己PR」を完成させる。
10	<自己分析③> 人の自己PRを聞いてみるⅠ	前回までに作成した「自己PR」「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」等を、数名のグループを作って一人ずつ発表する。人からの意見を聞くことで新たな気づきがあったり、参考にできる部分は参考にする。また、発言を聞いている人は、発言者に必ず質問する。（そのため話をしっかり聞き、メモを取る。）
11	<自己分析④> 人の自己PRを聞いてみるⅡ	前回までに作成した「自己PR」「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」等を、数名のグループを作って一人ずつ発表する。人からの意見を聞くことで新たな気づきがあったり、参考にできる部分は参考にする。また、発言を聞いている人は、発言者に必ず質問する。（そのため話をしっかり聞き、メモを取る。）
12	質問力を高める	他学科・他部署の先生が時間を区切り、あるテーマで話をする。学生はチームで質問を考え、代表者が挙手の上、質問をしていく。学生は、質問をするためしっかり話を聞き、メモを取って臨む。（人と話を交えて、複数講師も可。）
13	業界研究「職業・職種を知る」	自身が目指す（興味のある）業界・職種（人によっては具体的な企業）について調査し、各自でまとめて発表する。
14	身だしなみ講座＆就職情報サイト登録	これから本格的に就職活動を行う上で必要となる「身だしなみ」について学ぶ。（挨拶や表情についても触れる）さらにマイナビ、リクナビ等の就職情報サイトの登録を行い、後期に向けて活動がスムーズに進められるようにする。
15	前期試験	昨年度の業界EXPO参加票をそのまま使って、自己PR欄を完成させる。いよいよ後期には業界EXPOがある＝（就職活動が本格的に始まる）ことの動機付けにする。

☐ 到達目標

- ・「過去の自分」をもとにした「自己PR」は完成させる。
- ・就職活動の準備段階で必要となる対外コミュニケーションスキルを身に付け、スムーズに業界EXPOに参加できるようにする。

☐ 成績評価の方法・基準

- ・業界EXPO参加票の最後の行まで記入できていれば100点。
そこから、出欠状況、授業に取り組む姿勢等を考慮し、学科判断で減点する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		コンピューター演習 I		重宗由貴乃		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は一般企業で事務職として勤務した実績を踏まえ、PCスキルの基礎を固め実践で活かせる力を身につける授業を実施する。

☐ 授業科目の概要

Excelの操作方法を習得し、目的に合わせて表集計できるようにする。

グラフや図形などの挿入もスムーズに行うことができるようにする。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	基本操作	エクセルの画面構成、オートフィル
2	数式の入力	四則演算、SUM関数、AVERAGE、MAX、MIN
3	表の作成・編集	セルの書式設定、罫線の設定、表示形式の設定
4	数式と関数（1）	相対参照と絶対参照
5	数式と関数（2）	ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN
6	グラフの作成（1）	グラフの作成・変更&用途
7	グラフの作成（2）	グラフのレイアウト、データラベル
8	数式と関数（3）	COUNT、COUNTA関数RANK.EQ関数
9	印刷設定	余白、拡大・縮小、ヘッダ・フッタ、印刷プレビュー
10	データベース機能	並べ替え、条件にあったデータの抽出
11	オブジェクト作成	オブジェクトの挿入・編集
12	サーティファイ検定模擬	
13	サーティファイ検定模擬	
14	前期末試験模擬問題	
15	前期末試験	

☐ 到達目標

サーティファイExcel表計算処理技能認定試験 3 級合格

☐ 成績評価の方法・基準

授業内課題の提出、完成度

前期考査の実技試験

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		犬種学Ⅰ		NBA赤塚		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師赤塚は、動物の専門学校卒業後、4年間トリマーとして勤務したのち、トリミング専門学校講師として12年間実習授業を担当。
その経験と実績をもとに授業を展開する。

□ 授業科目の概要

日本における犬籍登録数上位犬種の基礎知識、沿革
犬種の成り立ち、性格、特徴を理解し犬を扱う際や飼い主様との会話に応用する力をつける

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	概要	犬の起源と歴史、生態、畜犬団体について、スタンダードとは
2	血統書、JKC、グループ	血統書の見かた、ドッグショーについて、犬種グループの分け方
3	1グループ	ボーダー・コリー、ラフ・コリー、ジャーマン・シェパード・ドッグ
4	1グループ	シェットランド・シープドッグ、ウェルシュ・コーギー、1 G小テスト
5	2グループ	バーニーズ・マウンテン・ドッグ、ブルドッグ、ドーベルマン
6	2グループ	グレート・ピレニーズ、グレート・デーン、ミニチュア・ピンシャー
7	2グループ	ミニチュア・シュナウザー、セント・バーナード、2 G小テスト
8	3グループ	ジャック・ラッセル・テリア、ノーフォーク・テリア、スコティッシュ・テリア
9	3グループ	ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア、ワイアー・フォックス・テリア、ヨークシャー・テリア
10	4グループ	ダックスフンド、3・4 G小テスト
11	5グループ	アラスカン・マラミュート、ボメラニアン、サモエド
12	5グループ	シベリアン・ハスキー、前期試験対策小テスト
13	5グループ	日本犬
14	期末試験	期末試験
15	試験振り返り	試験解説

□ 到達目標

犬種についての基礎知識(沿革など)の修得

□ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		グルーミング実習ⅠA		林幹子/鶴見菜月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。
講師鶴見は、5年間アニマルクラブでトリマー、ペットシッター、ホテル管理に従事した経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

□ 授業科目の概要

主要犬種のスタンダードを知る
プードルのトリミング(ラムクリップ/ベアカット)の基本をマスターする。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	授業説明/犬体準備	犬体モデルの組み立て/ウィッグの毛とき(スリッカー)/ハサミの使用方法(持ち方など)/カット前処理
2	犬体名称/ライン名称	犬体名称・ライン名称について ①カット前処理(顔バリ・腹・内股)
3	咬合/被毛	咬合/被毛について ②カット前処理(顔バリ・腹・内股) 足回りカット
4	プードル(サイズ・ペットクリップ)	②カット前処理(顔バリ・腹・内股) 足回りカット
5	プードル(ショークリップ)	③足回り～後躯
6	サマーカット	④後躯
7	シーズー(スタンダード)	⑤後躯
8	マルチーズ(スタンダード)	⑥後躯～中躯
9	ヨーキー/ポメラニアン(スタンダード)	⑦中躯～前躯
10	A・コッカー/E・コッカー(スタンダード)	⑧前躯
11	ビション(スタンダード)	⑨前躯
12	リボンつけ	⑩前躯～顔(ラム) 犬体モデルを使用したリボン付け(セットペーパーの使い方)
13	M・シュナ(スタンダード)	⑪一周 ※2枚目の毛使用
14	ベアの顔カット	⑫ベアの顔カット ※お座りわんちゃん使用
15	期末考査	⑬ベアの顔カット ※お座りわんちゃん使用

□ 到達目標

主要犬種の犬種標準の修得
ラムクリップのトリミング、点の理解と正しい保定技術修得

□ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		グルーミング実習 I B		小室千紘		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師小室は、トリマーとして、イオンペットに2年、都内個人トリミングサロンに6年勤務した経験を活かし、実習をおこなう。

☐ 授業科目の概要

ペット業界でトリマーとして働くために必要な犬の知識、ペISING(シャンプー・ブロー)の基本を実習を通して学びます。
後半では、今後のトリミングの土台となる足回りや部分カットなどシザーリング、クリッパー等のトリミング器具を使用した技術の修得をする。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	授業説明/道具説明	授業の流れをの説明(教室の準備/身だしなみ/受け渡し) 道具説明
2	授業説明/道具説明	犬体モデルを使用してペISING(シャンプー～ブロー)の練習
3	実技①	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
4	実技②	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
5	実技③	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
6	実技④	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
7	実技⑤	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
8	実技⑥	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
9	実技⑦	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
10	実技⑧	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
11	実技⑨	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
12	実技⑩	3回～11回の実習を基本として、時間配分(小型犬グルーミング犬種1時間仕上げ)を意識したトリミング
13	実技⑪	3回～11回の実習を基本として、時間配分(小型犬グルーミング犬種1時間仕上げ)を意識したトリミング
14	実技⑫	3回～11回の実習を基本として、時間配分(小型犬グルーミング犬種1時間仕上げ)を意識したトリミング
15	期末考査	

☐ 到達目標

ベーシックライセンスの取得 ※シャンプー・ブロー1時間 爪切り(やすり込み)、足裏バリカン
ペISINGの基本と簡単な部分カットの修得

☐ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	グルーミング実習ⅠC			石川千恵		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	実験・実習・実技			2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校教員として25年勤務。現在は講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している。その実績と経験をもとに授業を行う。

☐ 授業科目の概要

ペット業界でトリマーとして働くために必要な犬の知識、ペISING(シャンプー・ブロー)の基本を実習を通して学びます。
後半では、今後のトリミングの土台となる足回りや部分カットなどシザーリング、クリッパー等のトリミング器具を使用した技術の修得をする。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	シャンプー 講義	ペISINGの流れを実際の犬で見せながら説明 シャンプー前の注意点、ポイントを説明
2	人形シャンプー	犬体モデルを使用してペISING(シャンプー～ブロー)の練習 / 実習前の身体チェックポイント
3	実技①	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
4	実技②	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
5	実技③	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
6	実技④	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
7	実技⑤	モデル犬でのグルーミング実習 / シャンプーブローの基礎、爪切り、クリッパーを使用したお手入れ等
8	実技⑥	授業3回～7回を基本としてカット前の下準備(腹バリ・足回りカット)技術の修得
9	実技⑦	授業3回～7回を基本としてカット前の下準備(腹バリ・足回りカット)技術の修得
10	実技⑧	授業3回～7回を基本としてカット前の下準備(腹バリ・足回りカット)技術の修得
11	実技⑨	授業3回～7回を基本としてカット前の下準備(腹バリ・足回りカット)技術の修得
12	実技⑩	3回～11回の実習を基本として、時間配分(小型犬グルーミング犬種1時間仕上げ)を意識したトリミング
13	実技⑪	3回～11回の実習を基本として、時間配分(小型犬グルーミング犬種1時間仕上げ)を意識したトリミング
14	実技⑫	3回～11回の実習を基本として、時間配分(小型犬グルーミング犬種1時間仕上げ)を意識したトリミング
15	ベーシックライセンス	小型犬のペISING(シャンプー・ブロー・爪切り、足裏処理)を1時間30分仕上げ

☐ 到達目標

ベーシックライセンスの取得 ※シャンプー・ブロー1時間 爪切り(やすり込み)、足裏バリカン
ペISINGの基本と簡単な部分カットの修得

☐ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		動物形態機能学Ⅰ		下島徹子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

株式会社ストーク高島平手塚動物病院勤務15年目の臨床現場での経験を活かして生体と関わることについての講義を行う

☐ 授業科目の概要

スライドを配布、または板書にて自ら手を動かして動物の体の形態機能について学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	骨格	犬の骨格について
2	一般身体検査	犬の一般身体検査について
3	感染	フィラリア、ノミ、マダニについて
4	感覚器	犬の耳と目について
5	感覚器	犬の耳と目について
6	感覚器	犬の皮膚について
7	感覚器	犬の皮膚について
8	感覚器	犬の皮膚について
9	泌尿生殖器	犬の生殖器について
10	泌尿生殖器	犬の泌尿器について
11	泌尿生殖器	犬の泌尿器について
12	消化器	犬の消化器について
13	消化器	犬の消化器について
14	復習	今までの復習
15	期末考査	

☐ 到達目標

動物の形態機能について、トリマー、ドッグトレーナーでも必要な基礎の部分を理解する。

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		愛玩動物飼養管理士Ⅰ		宮崎麗奈		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業を行う。愛玩動物飼養管理士として、動物愛護や人と動物の共生などの活動を担う中心的存在として活躍するために、基本的理解を深めるとともに、専門知識への応用理解へつなげる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	愛玩動物飼養管理士とは	公益社団法人日本愛玩動物協会の目的・事業、愛玩動物管理士 愛玩動物管理士と愛護・適正飼養学、ボランティア活動
2	生命倫理と動物福祉	生命倫理の概念、動物福祉の概念、利用目的により異なる関わり方、愛玩動物の福祉 産業動物、実験動物、展示動物の福祉
3	体の仕組みと働き、繁殖・遺伝	体の基本の仕組み・消化器系、泌尿器系・運動器、皮膚と感覚器 生殖器系の形態機能、犬の繁殖生理、猫の繁殖生理、遺伝学概論
4	動物の行動としつけ1	発達過程と社会行動、学習理論、
5	動物の行動としつけ2	犬のしつけの基本、室内飼育猫のしつけの基本
6	動物愛護・適正飼養関連法規1	動物と法律、愛護適正飼養関連行政法規
7	動物愛護・適正飼養関連法規2	社会福祉行政、環境衛生法規、野生動物等に関する法律および条約
8	愛玩動物学1	動物の管理と飼養管理の関わり合い、歴史と品種、犬猫の飼養管理
9	愛玩動物学2	エキゾチックアニマルの飼養管理
10	愛玩動物学3	栄養と食事、高齢動物
11	人と動物の関係学	人間と動物の関わり、動物と社会問題
12	動物生活環境学1	ペット共生住宅、ペットツーリズム、動物愛護センター
13	動物生活環境学2	訓練、動物介在教育、マナー、リスク対策
14	ペット関連産業	ペット業界、動物取扱制度
15	期末考査	

☐ 到達目標

愛玩動物飼養管理士2級合格

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	猫学Ⅰ			NBA		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、動物の専門学校を卒業後3年間犬猫が講師として勤務。その後開業し、現在までの30年間生体販売、トリミング、ペットホテルキャットシッターの業務に従事した実績をもとに講義を行う。

☐ 授業科目の概要

基本的な“猫”についての知識を身につける

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	猫とは（歴史・学名）	猫と人との関わり、歴史など
2	猫とは（歴史・学名）	世界の猫の呼び名など
3	猫体名称	体のパーツと名称など
4	体の仕組み	骨格、筋肉、耳、目、鼻
5	体の仕組み	習性など
6	体の仕組み	
7	猫用語	発生スタイル、毛色など
8	猫用語	
9	猫用語	
10	グルーミング	猫のグルーミングについて
11	猫種①	猫種について
12	猫種①	猫種について
13	後期考査対策	前期まとめ
14	後期考査	
15	リフレクション	後期考査解説

☐ 到達目標

猫についての基礎を学ぶ

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		グルーミング概論		林幹子/鶴見菜月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。
講師鶴見は、5年間アニマルクラブでトリマー、ペットシッター、ホテル管理に従事した経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

授業科目の概要

主要犬種のスタンダードを知る
プードルのトリミング(ラムクリップ/ベアカット)の基本をマスターする。

授業の計画

週	項目	授業概要
1	授業説明/犬体準備	犬体モデルの組み立て/ウィッグの毛とき(スリッカー)/ハサミの使用方法(持ち方など)/カット前処理
2	犬体名称/ライン名称	犬体名称・ライン名称について ①カット前処理(顔バリ・腹・内股)
3	咬合/被毛	咬合/被毛について ②カット前処理(顔バリ・腹・内股) 足回りカット
4	プードル(サイズ・ペットクリップ)	②カット前処理(顔バリ・腹・内股) 足回りカット
5	プードル(ショークリップ)	③足回り～後躯
6	サマーカット	④後躯
7	シーズー(スタンダード)	⑤後躯
8	マルチーズ(スタンダード)	⑥後躯～中躯
9	ヨーキー/ポメラニアン(スタンダード)	⑦中躯～前躯
10	A・コッカー/E・コッカー(スタンダード)	⑧前躯
11	ビション(スタンダード)	⑨前躯
12	リボンつけ	⑩前躯～顔(ラム) 犬体モデルを使用したリボン付け(セットペーパーの使い方)
13	M・シュナ(スタンダード)	⑪一周 ※2枚目の毛使用
14	ベアの顔カット	⑫ベアの顔カット ※お座りわんちゃん使用
15	期末考査	⑬ベアの顔カット ※お座りわんちゃん使用

到達目標

成績評価の方法・基準

試験00% 課題00% 出席状況・授業態度00%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ペットデザイン研究Ⅰ			松本秀昭		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

デザイン事務所に勤務したのち、専門学校で約40年講師、専任として主に造形やデッサンなどの授業を担当。
以上の実績をもとに、視覚したものを形作ること、犬の骨格構成を理解し形として表現するトリミングにつながる授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

業界に関するいろいろなデザインされたものを真似から己で制作する。
犬を描いたり、つくことで形体や骨格を知る。「美的感覚を研ぐ」

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	授業概要説明	1年間の授業内容説明・自己紹介
2	観察すること	犬のバランス・手を観察し骨格を意識し描く
3	デザインと文字	好感のもたれる文字とは・・・書く・描く・文字の種数を知る。
4	犬の形体と骨格	好きな犬を描く。全体や顔（頭部）を資料等を利用して描く
5	犬の形体と骨格	好きな犬を描く。全体や顔（頭部）を資料等を利用して描く
6	犬の形体と骨格（キャラクターを意識）	いろいろな角度から描き、簡略化をする。
7	ペットショップ研究（外観）	店の外観・看板や色彩・素材・使われているキャラクターを考える。
8	ペットショップ研究（外観）	調査から自分が良いと思われる表現をする。（彩色も検討）
9	犬を描く	好きな犬の正面・側面・奥面を描く
10	犬を描く	好きな犬の正面・側面・奥面を描く
11	模写	資料を描いて見る。資料：1～2cmの方眼紙
12	模写	資料を描いて見る。資料：1～2cmの方眼紙
13	模写	点で形を捕りポイントと外観を表現。鉛筆での濃淡を表現。
14	模写	濃淡で立体感を表現。
15	前期試験	前期考查 課題完成→提出

☐ 到達目標

犬の形体や骨格を知る。
目で見たものを形にする

☐ 成績評価の方法・基準

課題の完成度80%
出席率20%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング概論Ⅰ		齊藤 惇		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

犬への基本的な指示の習得。正しい犬との接し方。C級ライセンスへの意識づけ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	授業説明、道具説明
2	講義	犬との歩き方、接し方、リードの基本
3	講義	体さばき、体重移動、指示の出し方
4	演習	基本動作（マテ・スワレ）
5	演習	基本動作（ツケ・オイデ）
6	演習	基本動作（左回転）
7	演習	基本動作（右回転）
8	演習	基本動作（交差）
9	演習	脚側行進（初回）
10	演習	脚側行進（応用）
11	演習	アジリティ（ハードル・トンネル）
12	演習	アジリティ（タイヤ・平均台）
13	演習	C級ライセンスについて
14	演習	C級ライセンスについて
15	期末考査	前期考査

☐ 到達目標

基本動作の習得。安全な歩行。

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	全専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	ホスピタリティⅡ			吉田訓代	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

日本航空客室乗務員での接客経験がある講師が、社会人として必要なビジネスマナー・接客マナーをオンライン講義形式・オンラインロールプレイング形式で実施する。

☐ 授業科目の概要

サービス接客検定2級合格を目標に、面接対策中心に実施する。

11月試験終了後は接客ロールプレイング中心の授業で、アルバイトや今後の仕事につなげられるように接客スキルを身につける。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
2	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
3	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
4	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
5	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
6	電話応対	電話の基本対応
7	電話応対	電話の応用
8	社会人としてのマナー	仕事の取り組み姿勢 仕事の進め方 報告・連絡・相談のポイント
9	オフィスでのセキュリティマナー	オフィスでのセキュリティマナー SNSの危険性と注意点
10	年末年始マナー	
11	社会人としてのマナー	仕事の取り組み姿勢 仕事の進め方 報告・連絡・相談のポイント
12	社会人としてのマナー	仕事の取り組み姿勢 仕事の進め方 報告・連絡・相談のポイント
13	社会人としてのマナー	仕事の取り組み姿勢 仕事の進め方 報告・連絡・相談のポイント
14	後期考査	筆記試験実施
15	振り返り	

☐ 到達目標

サービス接客検定2級合格

第一印象アップ。愛想の良い接客

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題00% 出席状況・授業態度50%

サービス接客検定2級合格者考査免除

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1 年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ビジネスコミュニケーションⅡ			CSC		
授業の種類	授業の方法（講義／演習／実験・実習実技／その他（概要記載））			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義			1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

1 年前期「ビジネスコミュニケーションⅠ」の流れを引き継ぎ、業界EXPOの準備を通して就職活動に必要な知識を身につけていきます。

業界EXPO後はリフレクションを通して個人の課題を見つけ、最終的には就職活動を一人でも行える能力を身に付けます。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	意識づけ（就職活動、業界EXPO）	就職活動（社会保険、キャリア形成、準備）、業界EXPO（5つの人間力など）、就職活動スケジュール確認など
2	就職活動のスーツやメイクと就職活動の軸	就職活動を行うためのスーツやメイクについてレクチャーする。後半は学生個人の就職活動の軸について考える
3	書類作成①	志望動機と自己PRの作成手順の説明し、実際に作成してみる
4	書類作成②	前回作成した自己PR（履歴書自己PR欄＝業界EXPO参加票）を添削し、参加票に清書書きを行う
5	業界EXPO準備①	スーツ登校させ事前チェックを行う、参加票の清書書きを行う、企業研究シート作成の説明を行う
6	業界EXPO準備②	企業研究シートの作成、業界EXPOでの質問時のマナーを説明し質問を考える、業界EXPO当日の注意事項などを学生パンフを使い確認していく
7	業界EXPO振り返り	業界EXPOの振り返り（リフレクション）を行い、後半は就職活動マナー（メール、電話、封筒、送り状、お礼状、企業説明会参加のマナーなど）を学ぶ
8	書類作成③	志望動機と自己PR以外の履歴書の書き方をレクチャーする
9	就職活動対策①	エントリーシートの書き方と活動の流れをしっかりと理解する※ペット愛玩は研修注意事項と電話のかけ方
10	就職活動対策②	面接対策①（基本5項目の書き方の説明と作成）
11	就職活動対策③	面接対策②（実践：面接官と受験者を実際に体験してみる）
12	就職活動対策④	グループディスカッション（GD）対策、求人票の見方、今後の就職活動スケジュールの確認など
13	スタログ説明	今年度から導入した就職活動アプリ「スタログ」の使用説明を行う※業者作成の動画
14	期末考査の準備	就職試験でよく聞かれる5項目について考え完成させる
15	期末考査	就職試験基本5項目をそれぞれ指定の字数で書く
16		

☐ 到達目標

就職活動への意識を高め、活動のノウハウを身に付ける。

☐ 成績評価の方法・基準

日頃の授業態度と考査の結果を総合的に評価する。

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	コンピューター演習Ⅱ		重宗由貴乃		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は一般企業で事務職として勤務した実績を踏まえ、PCスキルの基礎を固め実践で活かせる力を身につける授業を実施する。

☐ 授業科目の概要

Wordの基本操作の学習。サーティファイWord処理技能認定試験 3 級合格を目指す

PowerPointの基本操作の学習。PowerPointの操作方法を習得し、目的に合ったスライドを作成する

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	Wordの基礎知識①	編集記号、段落、インデント、均等割り付け
2	Wordの基礎知識②	箇条書き、段落番号
3	Wordの基礎知識③	タブ設定、行途中の位置ぞろえ
4	Wordの基礎知識④	表挿入、編集
5	Wordの基礎知識⑤	図形要素の挿入 ワードアート、SmartArt
6	Wordの基礎知識⑥	図形要素の挿入 オンライン画像、図形
7	PowerPointの基礎知識①	スライド作成
8	PowerPointの基礎知識②	スライド編集、アニメーション設定
9	PowerPointの基礎知識③	スライドショーの実施
10	サーティファイ検定対策①	Word文書処理技能認定試験 3 級模擬問題
11	サーティファイ検定対策②	Word文書処理技能認定試験 3 級模擬問題
12	サーティファイ検定対策③	Word文書処理技能認定試験 3 級模擬問題
13	サーティファイ検定対策④	Word文書処理技能認定試験 3 級模擬問題
14	試験対策	後期試験対策問題
15	後期末試験	後期考査

☐ 到達目標

サーティファイWord文書処理技能試験 3 級合格

Word文書を素早く見栄え良く作成できる

☐ 成績評価の方法・基準

授業内課題の提出、完成度

期末試験期間中の実技試験

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		犬種学Ⅱ		NBA		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

動物の専門学校を卒業後、8年間トリミングサロンにてトリマーとして勤務。

現在もペット業界に従事している実績をもとに講義を行う。

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業をおこなう。講義内容は事前収録し、各学科・クラスのClassroom／Teams等を通して毎週配信し、学生は自宅等で視聴。講義内容は配信後、一定期間再視聴できるように設定され、復習等に活用することができる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	前期振り返り	後期授業説明(6～10グループについて) 6グループ/犬の嗅覚について
2	6グループ	ビーグル/バセット/ダルメシアン
3	7グループ	ワイマラナー/アイリッシュ・セター
4	8グループ	A・コッカー/E・コッカー/E・スプリングー
5	8グループ	ラブラドル・レトリバー/ゴールデン・レトリバー 小テスト(1回～4回振り返り)
6	9グループ	ベキニーズ/バグ/シーズー
7	9グループ	フレンチ・ブルドッグ/チワワ
8	9グループ	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル/パピヨン
9	9グループ	ビション・フリーゼ/マルチーズ
10	9グループ	ブードル
11	10グループ	ボルゾイ/サルーキ
12	10グループ	アフガン・ハウンド/イタリアン・グレーハウンド/ウィペット
13	テスト対策	後期考查対策
14	後期考查	
15	テスト振り返り	後期考查振り返り・解説

☐ 到達目標

第6グループ～第10グループに属する犬種について
沿革と用途を知る

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅠA		林幹子/鶴見菜月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。
講師鶴見は、5年間アニマルクラブでトリマー、ペットシッター、ホテル管理に従事した経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

トリマー概論Ⅰとあわせて講義と実習を繰り返して行う。講義：主要犬種の犬種標準(スタンダード)を講義形式で犬種図鑑・プリントを使用しながら学ぶ。
実習：犬体モデルを使用しプードルの基本のトリミング(主にラムクリップとベアカット)を習得する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	人形カット	プードル ラムクリップ 計測
2	人形カット	プードル ラムクリップ 計測
3	人形カット	プードル ラムクリップ 計測
4	人形カット/テリア	プードル ラムクリップ テスト(2時間) テリア種のカット(シュナウザー以外)
5	人形カット/ポメラニアン	プードル ラムクリップ テスト(2時間) ポメラニアンのスタンダード・ペットカット
6	人形カット	見直し
7	人形カット	見直し
8	プードル	ベアカット 他カットスタイル
9	プードル	ショークリップについて セットペーパーを使用したラッピング(毛をきれいに伸ばすには)
10	シュナウザー	スタンダードとトリミング方法
11	A・コッカー	スタンダードとトリミング方法
12	ヨークシャテリア	スタンダードとトリミング方法 ペットカット(シザーとクリッパー) ラッピング方法(フルコート)
13	ビション	スタンダードとトリミング方法
14	シーズー	スタンダードとトリミング方法 ペットカット(シザーとクリッパー) ラッピング方法(フルコート)
15	後期末考査	

☐ 到達目標

☐ 成績評価の方法・基準

試験00% 課題00% 出席状況・授業態度00%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習 I B		小室千紘		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師小室は、トリマーとして、イオンペットに2年、都内個人トリミングサロンに6年勤務した経験を活かし、実習をおこなう。

☐ 授業科目の概要

実習形式でおこなう。グルーミング、トリミングの意味と意義について学び、トリミングの基本となるペISING技術を修得する。
実習を繰り返しおこなうことで、トリミング技術習得と小型犬のペISING(シャンプー・ブロー・爪切り・クリッパー)1時間でできることを目標とする。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
2	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
3	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
4	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
5	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
6	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
7	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
8	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
9	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
10	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
11	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
12	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
13	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
14	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
15	後期考查	

☐ 到達目標

小型犬のペISING、トリミングを一人でおこなう。
部分カット、体のクリッピング技術の習得

☐ 成績評価の方法・基準

技術完成度30% 出席状況・授業態度60%
受け渡し・犬の管理10%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅠC		石川千恵		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校に教員として25年勤務。現在は専門学校にて講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している経験をもとに授業を行う。

☐ 授業科目の概要

実習形式でおこなう。グルーミング、トリミングの意味と意義について学び、トリミングの基本となるペISING技術を修得する。
実習を繰り返しおこなうことで、トリミング技術習得と小型犬のペISING(シャンプー・ブロー・爪切り・クリッパー)1時間でできることを目標とする。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
2	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
3	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
4	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
5	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
6	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
7	実習	小型1～2人1頭 中・大型2～3人1頭 ポイントカット、クリッパーと使用したカット
8	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
9	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
10	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
11	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
12	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
13	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
14	実習	小型1人1頭 中・大型2人1頭 トリミング犬種のカット、プードル(他犬種含む)のクリッピング技術の習得
15	ライセンス模擬	

☐ 到達目標

小型犬のペISING、トリミングを一人でおこなう。
部分カット、体のクリッピング技術の習得

☐ 成績評価の方法・基準

技術完成度30％ 出席状況・授業態度60％
受け渡し・犬の管理10％

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		動物形態機能学Ⅱ		下島徹子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

株式会社ストーク高島平手塚動物病院勤務15年目の臨床現場での経験を活かして生体と関わることについての講義を行う

☐ 授業科目の概要

スライドの配布、板書にて自らの手を動かして動物の形態機能について学ぶ

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	復習	前期考查の復習
2	循環器	犬の循環器について
3	循環器	犬の循環器について
4	呼吸器	犬の呼吸器について
5	呼吸器	犬の呼吸器について
6	内分泌	犬の内分泌について
7	内分泌	犬の内分泌について
8	神経系	犬の脳、神経について
9	神経系	犬の脳、神経について
10	神経系	犬の脳、神経について
11	繁殖	犬の繁殖について
12	繁殖	犬の繁殖について
13	復習	今までの復習
14	復習	今までの復習
15	期末考查	

☐ 到達目標

動物の形態機能について、トリマー、ドッグトレーナーでも必要な基礎の部分を理解する。

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		愛玩動物飼養管理士Ⅱ		宮崎麗奈		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業を行う。愛玩動物飼養管理士として、動物愛護や人と動物の共生などの活動を担う中心的存在として活躍するために、基本的理解を深めるとともに、専門知識への応用理解へつなげる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	復習	前期期末考査復習
2	動物愛護・適正飼養関連法規 1	動物と法律、愛護適正飼養関連行政法規
3	動物愛護・適正飼養関連法規 2	社会福祉行政、環境衛生法規、野生動物等に関する法律および条約
4	演習	11/22(日)愛玩飼養管理士2級合格に向けて
5	演習	11/22(日)愛玩飼養管理士2級合格に向けて
6	演習	11/22(日)愛玩飼養管理士2級合格に向けて
7	演習	11/22(日)愛玩飼養管理士2級合格に向けて
8	生命倫理と動物福祉	生命倫理の概念、動物福祉の概念、動物福祉
9	愛玩動物学	栄養と食事、高齢動物
10	動物の行動としつけ1	発達過程と社会行動、学習理論、
11	動物の行動としつけ 2	犬のしつけの基本、室内飼育猫のしつけの基本
12	人と動物の関係学1	人間と動物の関わり
13	人と動物の関係学2	動物と社会問題
14	復習	総復習/期末考査に向けて
15	期末考査	

☐ 到達目標

愛玩動物飼養管理士2級合格

☐ 成績評価の方法・基準

期末考査100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		猫学Ⅱ		NBA 澤田由紀		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、動物の専門学校を卒業後3年間犬猫が講師として勤務。その後開業し、現在までの30年間生体販売、トリミング、ペットホテルキャットシッターの業務に従事した実績をもとに講義を行う。

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業をおこなう。講義内容は事前収録し、各学科・クラスのClassroom／Teams等を通して毎週配信し、学生は自宅等で視聴。講義内容は配信後、一定期間再視聴できるように設定され、復習等に活用することができる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	前期振り返り	猫との暮らしについて
2	管理・飼育方法	完全室内飼育・先住動物との暮らし/猫の生活に必要な用品
3	食事・食性	第2回振り返り(小テスト)/猫の食事・食性/猫に危険な植物
4	食事・食性	ペットフードについて/ペットフード安全法/総合栄養食・間食・療法食/添加物/ペットフードの種類
5	猫の健康管理	第3回・4回振り返り(小テスト)/健康チェック(耳・口腔・外部寄生虫・排泄物)
6	ワクチン・不妊手術	ワクチンについて(時期と必要性・種類・副作用と服反応)/理想のワクチンの打ち方/予防できる病気/不妊(避妊・去勢)手術について(メリットとデメリット)
7	繁殖	猫の繁殖について 交配/交尾/妊娠期間/妊娠中の管理/出産準備/出産・産後の管理
8	グルーミング	ケースグルーミングについて 必要性/猫のカットの種類/皮膚疾患などの予防・治療、外部寄生虫対策/高齢猫のグルーミング
9	猫種について	パーマン/ターキッシュアンゴラ/ターキッシュバン/セルカークレックス/ラパーマ コーニッシュレックス/デボンレックス/ジャパニーズボブテイル/コラット/シンガプーラ/シャルトリュー/エジプシャンマウ/オシキャット
10	猫種について	バーミーズ/ボンベイ/トンキニーズ/オリエンタル(ショート&ロング)/スフィンクス/ハバナ/マンクス/アメリカンワイヤーヘア
11	まとめ①	後期末まとめ/復習
12	まとめ②	後期末まとめ/復習
13	テスト対策	後期考查対策
14	後期考查	
15	テスト振り返り	後期考查振り返り・解説

☐ 到達目標

猫の管理と飼育方法を知る
猫種について学ぶ

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング概論		林幹子/鶴見菜月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。
講師鶴見は、5年間アニマルクラブでトリマー、ペットシッター、ホテル管理に従事した経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

□ 授業科目の概要

トリミング実習ⅠAとあわせて講義と実習を繰り返し行う。講義：主要犬種の犬種標準(スタンダード)を講義形式で犬種図鑑・プリントを使用しながら学ぶ。
実習：犬体モデルを使用しプードルの基本のトリミング(主にラムクリップとベアカット)を習得する。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	人形カット	プードル ラムクリップ 計測
2	人形カット	プードル ラムクリップ 計測
3	人形カット	プードル ラムクリップ 計測
4	人形カット/テリア	プードル ラムクリップ テスト(2時間) テリア種のカット(シュナウザー以外)
5	人形カット/ポメラニアン	プードル ラムクリップ テスト(2時間) ポメラニアンのスタンダード・ペットカット
6	人形カット	見直し
7	人形カット	見直し
8	プードル	ベアカット 他カットスタイル
9	プードル	ショークリップについて セットペーパーを使用したラッピング(毛をきれいに伸ばすには)
10	シュナウザー	スタンダードとトリミング方法
11	A・コッカー	スタンダードとトリミング方法
12	ヨークシャテリア	スタンダードとトリミング方法 ペットカット(シザーとクリッパー) ラッピング方法(フルコート)
13	ビション	スタンダードとトリミング方法
14	シーズー	スタンダードとトリミング方法 ペットカット(シザーとクリッパー) ラッピング方法(フルコート)
15	後期末考査	

□ 到達目標

スタンダード犬種のカット技法の理解
トイプードル(ラムクリップとベアカット)のトリミング

□ 成績評価の方法・基準

人形カットの完成度40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ペットデザイン研究Ⅱ			松本秀昭		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

デザイン事務所に勤務したのち、専門学校で約40年講師、専任として主に造形やデッサンなどの授業を担当。
以上の実績をもとに、視覚したものを形作ること、犬の骨格構成を理解し形として表現するトリミングにつながる授業をおこなう。

□ 授業科目の概要

犬の形体を半立体、立体に表現し犬の正しい骨格を理解する

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	犬の形を探る	折り紙で犬の形を表現する。横(側面)から見える犬を作る。
2	犬の形を探る	骨格の変化をチェックし、折ることで形を作る(資料配布)
3	店舗(サロン・ショップなど)の内部を研究	内部空間を意識させる。入口から客の動線を考え必要な空間を理解する。
4	店舗(サロン・ショップなど)の内部を研究	内部空間を意識させる。入口から客の動線を考え必要な空間を理解する。
5	店舗(サロン・ショップなど)の内部を研究	空間のスケッチ・図面で表現していく。
6	店舗(サロン・ショップなど)の内部を研究	空間のスケッチ・図面で表現していく。
7	店舗(サロン・ショップなど)の内部を研究	空間のスケッチ・図面で表現していく。
8	犬の形を作る(ラムクリップ)	ブードルのラムクリップを描く
9	犬の形を作る(ラムクリップ)	形を理解し、ハッポー材で芯になる形体を作る。
10	犬の形を作る(ラムクリップ)	形を理解し、ハッポー材で芯になる形体を作る。
11	犬の形を作る(ラムクリップ)	資料・犬の展開図を参考にする。カッターナイフで削る。
12	犬の形を作る(ラムクリップ)	資料・犬の展開図を参考にする。カッターナイフで削る。
13	犬の形を作る(ラムクリップ)	芯の形態に粘土(石塑)で作っていく
14	犬の形を作る(ラムクリップ)	芯の形態に粘土(石塑)で作っていく
15	完成	

□ 到達目標

犬の正しい骨格構成を理解し、形を作る

□ 成績評価の方法・基準

授業内課題の提出、完成度60%
出席状況40%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	トリマーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング概論Ⅱ		齊藤 惇		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

犬にわかりやすい指示、できる犬にはよりレベルの上げた指示を考える。
犬の性格や自分の性格と相性などが合うのか考察する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	演習	基本動作の確認
2	演習	犬と遊ぶ
3	演習	犬へのわかりやすい指示を考え、実行
4	演習	アジリティー（ハードル、トンネル）
5	演習	アジリティー（平均台）
6	演習	アジリティー（タイヤ）
7	演習	アジリティー（山）
8	講義	散歩について
9	演習	アジリティー（スラローム）
10	演習	C級ライセンス練習
11	演習	C級ライセンス練習
12	演習	トリーツの扱い方①
13	演習	トリーツの扱い方②
14	演習	C級ライセンス模擬
15	期末考査	後期考査

☐ 到達目標

正確な指示の出し方を理解し、実践できるようにする
安全な歩行

☐ 成績評価の方法・基準

試験 40% 出席率・授業態度 60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ペット栄養学Ⅰ		亀子美穂		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はエンゼル動物病院看護師長であり、動物看護師歴9年以上のキャリアと愛玩動物看護師国家資格取得者である。勤務先の動物病院で栄養学等の院内セミナーを行い、スタッフの指導、育成を行っている。以上の実績を踏まえ、動物看護師の実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

動物の健康維持に必要な栄養学を学び、各栄養素の働きや必要量について理解する。
併せて、成長段階や健康状態に応じて適切な栄養管の基本を身につける。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	五大栄養素	炭水化物
2	五大栄養素	蛋白質
3	五大栄養素	脂質
4	五大栄養素	ビタミン
5	五大栄養素	ミネラル、水分
6	消化と吸収	消化と吸収について
7	エネルギー要求量	エネルギー要求量とカロリー計算について
8	与えてはいけない食物	犬や猫に与えてはいけない食物
9	ペットフード	ペットフードとは
10	食性と嗜好	犬と猫の食性と嗜好性の違い
11	ライフステージ別の食時管理	ライフステージ別の食事管理の仕方
12	手作りフード	手作りフードのメリットとデメリット
13	肥満動物の栄養管理	肥満動物の栄養管理と療法食
14	消化器疾患の栄養管理	消化器疾患の栄養管理と療法食
15	試験	

☐ 到達目標

動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を理解し、説明できる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験100% 課題00% 出席状況・授業態度00%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	ビジネスコミュニケーションⅢ		キャリアサポートセンター			
授業の種類	授業の方法（講義／演習／実験・実習実技／その他（概要記載））		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	その他（就職関連）		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

1年後期からの準備を踏まえて、実際に就職活動を行っていく。学生一人一人が現在の自分の就職活動状況に合わせ活動を行い、個別の面談も並行して行っていく。時には企業を呼び説明会を行うなど、就職決定に向けた実践的な授業を行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
2	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
3	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
4	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
5	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
6	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
7	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
8	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
9	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
10	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
11	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
12	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
13	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
14	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
15	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
16		

☐ 到達目標

就職決定を到達目標とする

☐ 成績評価の方法・基準

試験00% 課題00% 出席状況・授業態度100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ペット経営学		NBA佐野		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

トリミングの専門学校を卒業後、トリミングサロンに勤務し、トリミング業務の他ホテル管理や販売業務などに従事。さらに海外のトリミングサロンにトリマーとして勤務。現在は名古屋ビジネス・アカデミーにて、職員として20年勤務。これまでの実績と経験をもとに授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

経営者を目指していない人でも、身近に感じる内容にして、これから働く職場で求められる事や経営者がどんな事を考えて経営しているのか考えさせる。自分がオーナーになって自分の店を考えてみる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	経営者と店長と従業員の仕事	経営者と店長と従業員の違いや仕事内容を知る。今後、働く先で上司や先輩がどんな事を考えて仕事をしているかを学ぶ。
2	集客について	集客を増やすことによって売上をあげる方法を学ぶ。
3	マーケティング	マーケティングの4P・SWOT分析・基本概念・歴史を学ぶ。
4	店の特徴を整理する	特徴を知るSWOT分析をさらに詳しく掘り下げる。特徴を伝える方法のUSPを学ぶ。
5	効果のある集客活動	潜在顧客からファン客にさせるためのアプローチ方法。離反防止と休眠顧客の掘り起こし。
6	消費者行動	消費者の立場で考え、消費者行動に影響する要因を理解する。AIDMAモデル。
7	集客ツール	お店をアピールするためのツールの中で、HP、チラシ、DMやその他の特徴や方法を学ぶ。
8	陳列・レイアウト	効果的な陳列やレイアウトを知り、購買力を上げる方法を学ぶ。
9	売上と利益	集客活動の数値目標の立て方。売上方程式、売上管理などを学ぶ。
10	コストを理解する	コスト管理、固定費や変動費、また損益分岐点などの算出方法を学ぶ。
11	開業～テナント編①～	テナントを借りて開業をする手順、その中で何が必要かを学ぶ。
12	開業～テナント編②～	テナントを借りて開業をする手順、その中で何が必要かを学ぶ。
13	開業～自宅編～	自宅開業をする手順、その中で何が必要かを学ぶ。
14	前期考査	
15	振り返り	前期考査解説

☐ 到達目標

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅡA		石川千恵/鶴見菜月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		4	8×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、20年以上動物の専門学校でトリマーとして学生指導の従事した実績がある。また現在もトリミングサロンにトリマーとして従事している経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

講師鶴見は、5年間アニマルクラブでトリマー、ペットシッター、ホテル管理に従事した経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

実習形式でおこなう。実習犬を活用し、トリミングに必要な技術（シザーリング、クリッピングなど）の習得を目指す。

犬の性質や骨格構成を理解し、時間配分/保定/安全性/バランスなど、個々に対応した扱い、トリミングを考える。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習① 1年振り返り	ベISINGの見直し、時間配分を考える。弱点強化(1年次の振り返り)
2	実習②	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
3	実習③	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
4	実習④	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
5	実習⑤	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
6	実習⑥	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
7	実習⑦	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
8	実習⑧	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
9	実習⑨	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
10	実習⑩	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
11	実習⑪	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
12	実習⑫	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
13	実習⑬	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
14	実習⑭	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
15	後期考查	

☐ 到達目標

主要犬種のトリミングの基本知識とカット技術の修得

☐ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅡB		林幹子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	3	6×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。

☐ 授業科目の概要

実習形式でおこなう。実習犬を活用し、トリミングに必要な技術(シザーリング、クリッピングなど)の習得を目指す。
犬の性質や骨格構成を理解し、時間配分/保定/安全性/バランスなど、個々に対応した扱い、トリミングを考える。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習① 1年振り返り	ベISINGの見直し、時間配分を考える。弱点強化(1年次の振り返り)
2	実習②	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
3	実習③	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
4	実習④	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
5	実習⑤	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
6	実習⑥	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
7	実習⑦	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
8	実習⑧	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
9	実習⑨	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
10	実習⑩	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
11	実習⑪	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
12	実習⑫	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
13	実習⑬	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
14	実習⑭	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
15		ライセンス模擬

☐ 到達目標

主要犬種のトリミングの基本知識とカット技術の修得

☐ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅡC		林幹子/鶴見菜月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		3	6×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。
講師鶴見は、5年間アニマルクラブでトリマー、ペットシッター、ホテル管理に従事した経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

□ 授業科目の概要

実習形式でおこなう。実習犬を活用し、トリミングに必要な技術（シザーリング、クリッピングなど）の習得を目指す。
犬の性質や骨格構成を理解し、時間配分/保定/安全性/バランスなど、個々に対応した扱い、トリミングを考える。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習① 1年振り返り	ベISINGの見直し、時間配分を考える。弱点強化(1年次の振り返り)
2	実習②	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
3	実習③	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
4	実習④	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
5	実習⑤	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
6	実習⑥	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
7	実習⑦	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
8	実習⑧	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
9	実習⑨	モデル犬でのトリミング実習。主要犬種のトリミングを実践でおこなう。
10	実習⑩	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
11	実習⑪	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
12	実習⑫	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
13	実習⑬	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
14	実習⑭	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
15	後期考査	

□ 到達目標

主要犬種のトリミングの基本知識とカット技術の修得

□ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅠA		越森雄也		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当職員の越森はドッグトレーナーとして、ほいくえん（トレーニング）で5年間勤務。
現在は愛犬とディスクドッグで10年間競技を続け、学外のトレーニング法を合わせ実習授業を展開する。

□ 授業科目の概要

犬に的確な指示を出せるように学んでいく。
安全に犬をコントロールを行えるよう学んでいく。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	基本動作見直し（マテ、スワレ、左右回転、交差）
2	実習	リード、チョーク、姿勢、声符、視符の基本見直し
3	実習	犬への指示のステップアップ①
4	実習	犬への指示のステップアップ②
5	実習	自由を与えたトレーニング①
6	実習	自由を与えたトレーニング②
7	実習	ロングリードを使用したトレーニング①
8	実習	ロングリードを使用したトレーニング②
9	実習	ロングリードを使用してアジリティを行う（ハードル）
10	実習	ノーリードを意識したトレーニング①
11	実習	ノーリードを意識したトレーニング②
12	実習	ノーリードでのトレーニング
13	実習	C級ライセンスについて
14	実習	C級ライセンス模擬
15	期末考査	前期考査

□ 到達目標

安全な犬のコントロール
C級ライセンス意識づけ

□ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		看護基礎学Ⅲ		梅田真理子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
選択授業		講義・演習		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は獣医師として複数の動物病院で10年以上勤務し、小動物臨床に携わってきた。また複数の専門学校で講師として14年勤務し、動物看護に関する授業を担当してきた。以上の実績を踏まえ、動物看護の実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

看護基礎学Ⅰ・Ⅱで学習した内容をふまえ、ズーノーシスや動物の福祉、愛玩動物以外の動物現状や関連放棄・法律について学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	ズーノーシス①	身近なズーノーシスを学ぶ意義
2	ズーノーシス②	噛まれたり、引っ掻かれることにろり感染するズーノーシス
3	ズーノーシス③	日常生活に関係の深いズーノーシス
4	ズーノーシス④	食中毒を引き起こすズーノーシス、マダニ媒介性ズーノーシス
5	ズーノーシス⑤	ズーノーシスの一般的な予防法、その他の代表的なズーノーシス
6	イヌ・ネコの繁殖管理①	イヌ・ネコの繁殖生理の違い（発情周期、性成熟）
7	イヌ・ネコの繁殖管理②	イヌ・ネコの妊娠・出産（正常分娩、帝王切開）、周産期の母体と新生児の管理について
8	幼齢動物の飼養管理	初乳の必要性、人工哺乳、成長に適した飼育ケア、排泄援助
9	老齢動物の飼養管理	加齢に伴うさまざまな変化、認知障害、徘徊、夜泣き、環境整備と介護グッズについて
10	エキゾチックアニマルの飼養管理	小型げっ歯類の習性適正飼育方法、主な病気など
11	産業動物と実験動物	社会的役割、動物の福祉（5つの自由、3R原則）、問題点の現状
12	野生動物と展示動物	種類、動物福祉における問題点、外来生物における現状
13	テスト試験対策	テスト対策を行います
14	前期試験	オンラインで行います
15	前期振り返り	テストの解答・解説、動物福祉・人間動物関係学について

☐ 到達目標

卒業後、社会人として仕事上出会イヌ・ネコの健康と命を預かる覚悟の持てる人材になる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験80% 出席状況・授業態度20%
試験60点以上合格

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ペットデザイン研究Ⅲ		松本秀昭		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
選択授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

デザイン事務所に勤務したのち、専門学校で約40年講師、専任として主に造形やデッサンなどの授業を担当する。
人体デッサンや造形の実務経験をもとに、犬の形体理解、ペットショップの模型制作などの造形の授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

講義と演習と交互に行う。犬をより多く知る。（骨格や形体等とバランスを理解させる）
目を養う。（観察力）犬を描いたり作ったりし形体や骨格をより意識させる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	業界への自己PR＋α	今までの自分を見つめる（振り返り）。1年次制作のラムカットされた形体を描く
2	形体を描く	理想形のラムクリップを前面・側面・上面・後面を描く
3	描写	資料を観る。模写による形を捕り、表現
4	描写	犬の形を捕らえ立体感を表現する
5	描写	陰影をつける
6	描写	完成
7	ペットショップ研究（内部）	ショップを研究し、ファザードから客他との対応～トリミング
8	ペットショップ研究（内部）	内部空間を計画する。
9	好きな犬を作る	犬の動作等、制作したいポーズをスケッチする
10	好きな犬を作る	芯棒を作る
11	好きな犬を作る	粘土で形を作る（荒く）
12	好きな犬を作る	バランスに注意し、形体を追求する
13	好きな犬を作る	仕上げ作業
14	好きな犬を作る	仕上げ作業
15	期末考査	

☐ 到達目標

骨格と構成、バランスを理解する

☐ 成績評価の方法・基準

授業内課題の提出、完成度

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ペット栄養学Ⅱ		亀子美穂		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はエンゼル動物病院看護師長であり、動物看護師歴9年以上のキャリアと愛玩動物看護師国家資格取得者である。勤務先の動物病院で栄養学等の院内セミナーを行い、スタッフの指導、育成を行っている。以上の実績を踏まえ、動物看護師の実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

犬猫の健康維持や美容、行動に関わる職種に必要な応用的栄養知識を学ぶ。疾患別の食事管理を中心に、皮膚・被毛・筋肉・行動など、日常ケアや飼い主対応に役立つ栄養学を理解する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	前期の総復習	前期の復習
2	皮膚疾患	皮膚疾患の栄養管理
3	腎臓病	腎臓病の栄養管理
4	糖尿病	糖尿病の栄養管理
5	心臓病	心臓病の栄養管理
6	下部尿路疾患	下部尿路疾患の栄養管理
7	関節疾患	関節疾患の栄養管理
8	口腔内疾患	口腔内疾患の栄養管理
9	栄養サポートと給餌	給餌姿勢、食欲低下時の工夫
10	サプリメントと機能性栄養	関節・皮膚・腸内環境・ストレス軽減サプリの基礎知識
11	皮膚・被毛の健康と栄養	皮膚・被毛と脂肪酸・ビタミンの関係
12	筋肉・運動と栄養	筋肉維持・エネルギー代謝・水分補給の重要性
13	高齢動物の栄養管理	老化に伴う変化、関節や認知機能への配慮、食べやすさの工夫
14	飼い主の対応とまとめ	飼い主への食事相談・伝え方、疾患別の要点総復習
15	期末試験	

☐ 到達目標

犬猫の健康状態や疾患に応じて適切な栄養管理の考え方を説明でき、現場で飼い主にアドバイスできる基礎応用力を身につける。

☐ 成績評価の方法・基準

試験100% 課題00% 出席状況・授業態度00%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ペットデザイン研究Ⅳ		松本秀昭		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

デザイン事務所に勤務したのち、専門学校で約40年講師、専任として主に造形やデッサンなどの授業を担当する。
人体デッサンや造形の実務経験をもとに、犬の形体理解、ペットショップの模型制作などの造形の授業をおこなう。

□ 授業科目の概要

講義と実習と交互に行う。
犬の形体を理解、自分の理想とするペットショップ、サロンを計画し、模型製作で具現化する。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	犬を立体表現し特色を理解	前期に制作した犬の細部をさらにチェック、犬種の特徴、骨格等を理解して作る。
2	犬を立体表現し特色を理解	前期に制作した犬の細部をさらにチェック、犬種の特徴、骨格等を理解して作る。
3	犬を立体表現し特色を理解	前期に制作した犬の細部をさらにチェック、犬種の特徴、骨格等を理解して作る。
4	自分の店を計画	どんな場所(環境)に○主となる客層は・・・○何人で働くのか・・・条件を決めを決め、内部・外部等を計画する。
5	自分の店を計画	どんな場所(環境)に○主となる客層は・・・○何人で働くのか・・・条件を決めを決め、内部・外部等を計画する。
6	①-1	スケッチ及び図面で表現。
7	①-2	スケッチ及び図面で表現。
8	②-1	①の計画の細部をまとめ、環境もわかる配置図・内部の上面図・横(測)面図を描く。(細部には、グル台・シンク・ドライヤー・・・、洗濯機やトイレ等も図面に含める)
9	②-2	①の計画の細部をまとめ、環境もわかる配置図・内部の上面図・横(測)面図を描く。(細部には、グル台・シンク・ドライヤー・・・、洗濯機やトイレ等も図面に含める)
10	②-3	①の計画の細部をまとめ、環境もわかる配置図・内部の上面図・横(測)面図を描く。(細部には、グル台・シンク・ドライヤー・・・、洗濯機やトイレ等も図面に含める)
11	②-4	模型材料を理解(スチレンボード、接着剤、カッター)
12	模型製作	図面をもとに縮尺1/30の模型を作る。
13	模型製作	台地・床・外壁・内部の壁・・・グル台、シンク等
14	模型製作	台地・床・外壁・内部の壁・・・グル台、シンク等
15	模型製作	完成

□ 到達目標

犬の骨格構成の理解し形を作る
自身の店舗を創造する

□ 成績評価の方法・基準

課題提出20% 課題の完成度40%出
席状況・授業態度40%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		エキゾチックアニマル		NBA		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、動物の専門学校卒業後、動物看護師として5年間動物病院に勤務。その後、5年間、名古屋ビジネス・アカデミー教員として愛玩動物看護学科を担当する。その実績と経験をもとに授業をおこなう。

授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業をおこなう。講義内容は事前収録し、各学科・クラスのClassroom／Teams等を通して毎週配信し、学生は自宅等で視聴。講義内容は配信後、一定期間再視聴できるように設定され、復習等に活用することができる。

授業の計画

週	項目	授業概要
1	エキゾチックアニマルについて	エキゾチックアニマルの歴史と現状、問題点について学ぶ
2	ウサギ①	ウサギの形体機能、適正飼養について
3	ウサギ②	ウサギの各種疾患、予防方法について
4	ハムスター①	ハムスターの形体機能、適正飼養について
5	ハムスター②	ハムスターの各種疾患、予防方法について
6	モルモット①	モルモットの形体機能、適正飼養について
7	モルモット②	モルモットの各種疾患、予防方法について
8	フェレット①	フェレットの形体機能、適正飼養について
9	フェレット②	フェレットの各種疾患、予防方法について
10	鳥類①	鳥類の形体機能、適正飼養について
11	鳥類②	鳥類の各種疾患、予防方法について
12	チンチラ	チンチラの形体機能、適正飼養、各種疾患、予防方法について
13	テスト対策	テスト対策プリント
14	後期考査	
15	振り返り	テスト復習・解説

到達目標

エキゾチックアニマルの形体機能、適正飼養
各種疾患と予防方法について理解する

成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング概論Ⅲ		越森雄也		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当職員の越森はドッグトレーナーとして、ほいくえん（トレーニング）で5年間勤務。
現在は愛犬とディスクドッグで10年間競技を続け、学外のトレーニング法を合わせ実習授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

犬との安全な歩行、犬に合ったトレーニングを考える
犬と関わるうえで必要最低限の賞賛するタイミング、叱責のタイミング

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	基本動作の確認
2	講義	賞賛するタイミング、叱責のタイミング
3	講義	アジリティ（ハードル・スラローム）
4	講義	アジリティ（中山）
5	講義	トリーツを用いた授業①
6	講義	アジリティを総合的に使用①
7	講義	アジリティを総合的に使用②
8	講義	散歩についての授業
9	講義	賞賛、叱責のメリハリ
10	講義	C級ライセンス練習
11	講義	C級ライセンス練習 苦手箇所修正
12	講義	トリーツを用いた授業②
13	講義	担当制とし1頭のトレーニングを追求①
14	講義	担当制とし1頭のトレーニングを追求②
15	期末考査	後期考査

☐ 到達目標

C級ライセンス取得
安全な犬のコントロール

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅢA		石川千恵		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		4	8×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校教員として25年勤務。現在は講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している。その実績と経験をもとに授業を行う。

□ 授業科目の概要

実習形式でおこなう。実習犬を活用し、トリミングに必要な技術（シザーリング、クリッピングなど）の習得を目指す。
基本犬種のスタンダードのカットに加え、個々の欠点をカバーしたトリミングを目指す。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
2	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
3	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
4	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
5	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
6	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
7	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
8	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
9	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
10	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
11	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
12	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
13	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
14	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
15	後期考查	ライセンス模擬

□ 到達目標

主要犬種のトリミングをマスターする
※プードル/シーズー/マルチーズ/シュナウザー/コッカー/ヨーキー他

□ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅢB		井上希美		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	3	6×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。

☐ 授業科目の概要

実習形式でおこなう。実習犬を活用し、トリミングに必要な技術（シザーリング、クリッピングなど）の習得を目指す。
犬の性質や骨格構成を理解し、時間配分/保定/安全性/バランスなど、個々に対応した扱い、トリミングを考える。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
2	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
3	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
4	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
5	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
6	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
7	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
8	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
9	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
10	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
11	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
12	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
13	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
14	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がり(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
15	後期考查	ライセンス模擬

☐ 到達目標

主要犬種のトリミングをマスターする
※プードル/シーズー/マルチーズ/シュナウザー/コッカー/ヨークー他

☐ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅢC		林幹子/島田佳奈		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		3	6×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。
講師島田は、トリマーとして9年トリミングサロンに勤務した経験に基づき、トリマー育成に向けた授業を展開する。

□ 授業科目の概要

実習形式でおこなう。実習犬を活用し、トリミングに必要な技術（シザーリング、クリッピングなど）の習得を目指す。
犬の性質や骨格構成を理解し、時間配分/保定/安全性/バランスなど、個々に対応した扱い、トリミングを考える。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
2	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
3	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
4	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
5	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック
6	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
7	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
8	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
9	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
10	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
11	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
12	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
13	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
14	実習	1人1頭/時間配分、犬のコントロール(保定) 足回り、全体の仕上がりが(左右のバランス)、顔カット等のポイントチェック、犬種の特性を活かし、欠点をカバーできるトリミング技術の習得
15	後期考查	ライセンス模擬

□ 到達目標

主要犬種のトリミングをマスターする
※プードル/シーズー/マルチーズ/シュナウザー/コッカー/ヨークー他

□ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅡA		越森雄也		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当職員の越森はドッグトレーナーとして、ほいくえん（トレーニング）で5年間勤務。
現在は愛犬とディスクドッグで10年間競技を続け、学外のトレーニング法を合わせ実習授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

犬との安全な歩行、犬に合ったトレーニングを考える
犬と関わるうえで必要最低限の賞賛するタイミング、叱責のタイミング

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	基本動作の確認
2	実習	賞賛するタイミング、叱責のタイミング
3	実習	アジリティ（ハードル・スラローム）
4	実習	アジリティ（中山）
5	実習	トリーツを用いた授業①
6	実習	アジリティを総合的に使用①
7	実習	アジリティを総合的に使用②
8	実習	散歩についての授業
9	実習	賞賛、叱責のメリハリ
10	実習	C級ライセンス練習
11	実習	C級ライセンス練習 苦手箇所修正
12	実習	トリーツを用いた授業②
13	実習	担当制とし1頭のトレーニングを追求①
14	実習	担当制とし1頭のトレーニングを追求②
15	期末考査	後期考査

☐ 到達目標

C級ライセンス取得
安全な犬のコントロール

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	トリマーコース		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	看護基礎学Ⅳ		梅田真理子		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
選択授業	講義・演習		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は獣医師として複数の動物病院で10年程度勤務し小動物臨床に携わってきた。また複数の専門学校で講師として14年勤務し、動物看護に関する授業を担当してきた。以上の実績を踏まえ、動物看護の実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

オンデマンド形式で講義をおこなう。

看護基礎学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの総まとめとして犬猫の健康管理全般を理解し実践力を養う

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	各種動物の基礎知識①	産業動物の福祉・実験動物の福祉
2	各種動物の基礎知識②	展示動物・野生動物の福祉
3	動物の福祉・人間動物関係学	5つの自由・HAB
4	動物看護における課題	職業倫理・QOL・インフォームドコンセント
5	幼齢動物・高齢動物の飼育管理	パピー、社会化期の重要性、加齢に伴う変化、老犬介護
6	エキゾチックアニマルの飼養管理	一般的なエキゾチックアニマルの生態、適正飼育方法
7	応急処置	1年次に学んだ動物の怪我や体調不良に対する応急処置の総復習
8	感染症とその予防	1年次に学んだ主な感染症についての総復習
9	身近なズーノーシス	1年次に学んだズーノーシス（人獣共通感染症）の総復習
10	繁殖の管理	交配から出産、出産後の管理、遺伝性疾患
11	日常の健康管理	1年次に学んだ健康管理について、飼い主さまへの指導に重点を置き学ぶ
12	食事の管理	1年次に学んだ食事の管理について、飼い主さまへの指導に重点を置き学ぶ
13	動物行動学	動物の行動の機能、動物の系統発生、行動のメカニズム、行動の個体発生について学ぶ
14	後期試験	
15	後期試験ふりかえり	期末考査の解説

☐ 到達目標

卒業後、自信をもって動物の状態確認ができるようになること
飼い主の心に寄り添った確かなアドバイスができるようになること

☐ 成績評価の方法・基準

試験80% 出席状況・授業態度20%
試験60点以上合格

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ホスピタリティ I			吉田訓代		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

日本航空客室乗務員での接客経験がある講師が、社会人として必要なビジネスマナー・接客マナーをオンライン講義形式・オンラインロールプレイング形式で実施する。

☐ 授業科目の概要

良い人間関係を築くためのコミュニケーションのポイントに加え、社会人にとって必要なマナーの知識を確認し、それらの学習成果を認定するコミュニケーションマナー検定を受験し、合格する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	コミュニケーション上手になるために	自分を知る 自分のコミュニケーションスタイルを確認する
2	好感度を高めるためのポイント	表情と笑顔 姿勢 服装や身だしなみ 態度や振る舞い
3	聴き方や話し方を見直す	傾聴のポイント 話し方や言葉遣いに配慮する 上手な気持ちの伝え方
4	食事の席での心得	食事の席で大切なこと 食具の種類と歴史 レストランでのマナー 箸使いについて
5	外出時の心得	公共の場での振る舞い 訪問先でのマナー あらたまった席での振る舞い
6	社会人として知っておくべきこと	日本や日本人について考えてみる 日本社会の特徴 多様性を受け入れる
7	社会人必須のマナー	ビジネスマナーの基本 ビジネス文書の書き方 電話応対 名刺交換 席次のルール
8	祝儀・不祝儀袋の贈り方	祝儀袋・不祝儀袋の用途 水引の種類 表書きの書き方 紙幣の入れ方
9	国際交流とプロトコール	国旗について 異文化コミュニケーションの注意点 世界の宗教
10	人生のイベント季節のイベント	誕生 お七夜 お宮参り お食い初め 七五三 厄年 長寿のお祝い お正月 節分 ひな祭り お花見などの年中行事について
11	検定模擬試験	
12	コミュニケーションマナー検定	今まで学んだことの理解力を試す
13	サービス接遇検定対策	サービス接遇検定2級過去問演習実施
14	サービス接遇検定対策	サービス接遇検定2級過去問演習実施
15	サービス接遇検定対策	サービス接遇検定2級過去問演習実施

☐ 到達目標

社会人になって最も大切なコミュニケーションについて確認し、コミュニケーション検定合格をめざす

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題30% 出席状況・授業態度20%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ビジネスコミュニケーションⅠ（キャリア基礎）			齊藤 惇		
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

- ・自分自身を理解し、将来像を考えることで、今、そしてこれから取り組むべきことを明確にする。
その内容に沿ったかたちで講義を進めて、対外コミュニケーションスキルを上げ、後期の業界EXPO、本格的な就職活動につなげる。
- ・「過去の自分」をもとにした「自己PR」を完成させる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	オリエン、自己紹介	半期の流れの説明及び、学生の自己紹介を行う。
2	学校を知る・学科を知る	学校の特長や学科の各授業が、どういう資格につながり、卒業後、どうなっていくための授業なのか、2年間、もしくは3年間の学びについて紹介する。
3	コミュニケーションゲーム （他人から見た自分）	クラスメイトから見た自分と、自身が思っている自分のイメージの違いを認識し、これから行う自己PR（長所）の作成に役立てる。「You are シート」を作成し、他己紹介を行い、スピーチトレーニングの要素を含める。
4	自己理解	マイカンパニーの概要に触れてから冊子のP.7～P.13の個人ワークを行う。その後、ペアになりお互いのことを発表。「話して気づいたこと」「聞いて心が動いたこと」をP.14のシートに記入。その内容も踏まえつつ、個人ワークで「自分史シート」「I am シート」を作成し、自身の強みを知り、なぜそれが身に付いたかをさらに掘り下げて考える。
5	キャリアプランニング	「将来デザインシート」「目標設定シート」を作成し、自身のざっくりとした将来像を考え、そのために必要なもの、今からできることを考える。そこで出てくるものが想定されるものが、第5回以降の授業で学ぶ内容とリンクしていく。
6	対外コミュニケーション①	対外コミュニケーションで必要となることを、例を挙げて解説。ロールプレイングを含めても良い。（例：「会社説明会に参加する」⇒入口でコートは脱ぎ、説明会の聞き方、メモは、質問は、終了後は、など）
7	対外コミュニケーション②	対外コミュニケーションで必要となる、採用担当者への文章の書き方やメール作成の仕方を考える。
8	<自己分析①> 自己PRにつなげる	前回までに取り組んだことを活かして、「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」を考える。
9	<自己分析②> 自己PRを作成する	前回までに取り組んだことを活かして、「自己PR」を完成させる。
10	<自己分析③> 人の自己PRを聞いてみるⅠ	前回までに作成した「自己PR」「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」等を、数名のグループを作って一人ずつ発表する。人からの意見を聞くことで新たな気づきがあったり、参考にできる部分は参考にする。また、発言を聞いている人は、発言者に必ず質問する。（そのため話をしっかり聞き、メモを取る。）
11	<自己分析④> 人の自己PRを聞いてみるⅡ	前回までに作成した「自己PR」「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」等を、数名のグループを作って一人ずつ発表する。人からの意見を聞くことで新たな気づきがあったり、参考にできる部分は参考にする。また、発言を聞いている人は、発言者に必ず質問する。（そのため話をしっかり聞き、メモを取る。）
12	質問力を高める	他学科・他部署の先生が時間を区切り、あるテーマで話をする。学生はチームで質問を考え、代表者が拳手の上、質問をしていく。学生は、質問をするためしっかり話を聞き、メモを取って臨む。（人と話を交えて、複数講師も可。）
13	業界研究「職業・職種を知る」	自身が目指す（興味のある）業界・職種（人によっては具体的な企業）について調査し、各自でまとめて発表する。
14	身だしなみ講座＆就職情報サイト登録	これから本格的に就職活動を行う上で必要となる「身だしなみ」について学ぶ。（挨拶や表情についても触れる）さらにマイナビ、リクナビ等の就職情報サイトの登録を行い、後期に向けて活動がスムーズに進められるようにする。
15	前期試験	昨年度の業界EXPO参加票をそのまま使って、自己PR欄を完成させる。いよいよ後期には業界EXPOがある＝（就職活動が本格的に始まる）ことの動機付けにする。

☐ 到達目標

- ・「過去の自分」をもとにした「自己PR」は完成させる。
- ・就職活動の準備段階で必要となる対外コミュニケーションスキルを身に付け、スムーズに業界EXPOに参加できるようにする。

☐ 成績評価の方法・基準

- ・業界EXPO参加票の最後の行まで記入できていれば100点。
そこから、出欠状況、授業に取り組む姿勢等を考慮し、学科判断で減点する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	コンピューター演習 I		日出間 隆樹		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

ソフトウェア企業において、プログラミング・S E経験。その後専門学校にて30数年の教員経験、現在に至る。

☐ 授業科目の概要

WORDの基本操作を習得し、正しい文書作成を実現できるように指導。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	オリエンテーション	P Cの基本操作、入力練習
2	WORD①	ページ設定 文字の入力と編集①
3	WORD②	文字の入力と編集②
4	WORD③	社内文書と社外文書
5	WORD④	表を用いた文書①
6	WORD⑤	表を用いた文書②
7	WORD⑥	画像を用いた文書①
8	WORD⑦	画像を用いた文書②
9	WORD⑧	タブとリーダーの使い方
10	WORD⑨	文書作成の基本まとめ(W O R D 3級問題を使って)
11	WORD⑩	文書作成の基本まとめ(W O R D 3級問題を使って)
12	WORD⑪	文書作成の基本まとめ(W O R D 3級問題を使って)
13	WORD⑫	文書作成の基本まとめ(W O R D 3級問題を使って)
14	前期期末試験答案練習	試験対策
15	前期末試験	

☐ 到達目標

まずは正しい文章が書けるようになること

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題25% 出席状況・授業態度25%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		犬種学Ⅰ		NBA赤塚		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師赤塚は、動物の専門学校卒業後、4年間トリマーとして勤務したのち、トリミング専門学校講師として12年間実習授業を担当。
その経験と実績をもとに授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

日本における犬籍登録数上位犬種の基礎知識、沿革
犬種の成り立ち、性格、特徴を理解し犬を扱う際や飼い主様との会話に応用する力をつける

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	概要	犬の起源と歴史、生態、畜犬団体について、スタンダードとは
2	血統書、JKC、グループ	血統書の見かた、ドッグショーについて、犬種グループの分け方
3	1グループ	ボーダー・コリー、ラフ・コリー、ジャーマン・シェパード・ドッグ
4	1グループ	シェットランド・シープドッグ、ウェルシュ・コーギー、1 G小テスト
5	2グループ	バーニーズ・マウンテン・ドッグ、ブルドッグ、ドーベルマン
6	2グループ	グレート・ピレニーズ、グレート・デーン、ミニチュア・ピンシャー
7	2グループ	ミニチュア・シュナウザー、セント・バーナード、2 G小テスト
8	3グループ	ジャック・ラッセル・テリア、ノーフォーク・テリア、スコティッシュ・テリア
9	3グループ	ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア、ワイアー・フォックス・テリア、ヨークシャー・テリア
10	4グループ	ダックスフンド、3・4 G小テスト
11	5グループ	アラスカン・マラミュート、ボメラニアン、サモエド
12	5グループ	シベリアン・ハスキー、前期試験対策小テスト
13	5グループ	日本犬
14	期末試験	期末試験
15	試験振り返り	試験解説

☐ 到達目標

犬種についての基礎知識(沿革など)の修得

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	グルーミング実習ⅠA			石川千恵		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	実験・実習・実技			1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校に教員として25年勤務。現在は専門学校にて講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している経験をもとに授業を行う。

☐ 授業科目の概要

ドッグトレーナーとして必要なグルーミングの基本を実習形式で習得する。

主にペISING(シャンプー、ブロー、爪切り、足裏の毛の処理)と安全な保定技術を学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	道具説明
2	講義	グルーミングの意味と意義 トリミングとは 人形の組み立て スリッカーの使い方
3	講義	シャンプー講義
4	人形シャンプー①	人形を使つてのペISING
5	人形シャンプー②	人形を使つてのペISING
6	実習	モデル犬でのシャンプー実習
7	実習	人形カット カット前処理(顔・四肢・尾)
8	実習	モデル犬でのシャンプー実習
9	実習	人形カット カット(肢まわり・後躯)
10	実習	モデル犬でのシャンプー実習
11	実習	人形カット カット(肢まわり・後躯)
12	実習	モデル犬でのシャンプー実習
13	実習	人形カット カット(後躯～中躯)
14	実習	モデル犬でのシャンプー実習
15	期末考査	期末考査 / 人形カット カット(後躯～中躯)

☐ 到達目標

ペISINGの基本を理解する

犬体モデルでラムクリップの基本を学ぶ

☐ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅠA		岩田雄介		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師岩田はドッグトレーナーとしてペットショップ（しつけ、ホテル、トリミング）に6年間勤務後、自身の店を立ち上げ経営者となる。
経営者および現役トレーナーとしての実績をもとにペット業界で即戦力となるトレーニング実習を展開する。

☐ 授業科目の概要

犬への基本的な指示の習得が目標。また正しい犬との接し方やコントロールを学んでいく。
トレーナーとして必要な知識を学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	犬との歩き方、接し方、リードの基本、体さばき
2	実習	リードの基本、体さばき
3	実習	基本動作（マテ・スワレ）
4	実習	革リードを用いて長短
5	実習	革リードを用いて犬に自由を与えるトレーニング
6	実習	ロングリードの基本的な使い方
7	実習	ロングリードを使用して犬と遊ぶ
8	実習	ロングリードを用いて長短
9	実習	ごほうびを用いてのトレーニング
10	実習	散歩について
11	実習	実習犬を担当制で行う（自分の目標を考え、実行）
12	実習	実習犬を担当制で行う（犬の目標を考え、実行・個体に合わせたトレーニング）
13	実習	C級ライセンスについて
14	実習	C級ライセンスについて
15	期末考査	前期考査

☐ 到達目標

基本的な犬への指示の習得
安全な犬への接し方

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅠB		松浦優		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師松浦は、ペットショップ経営者として、またドッグトレーナー兼トリマーとして5年間勤務。
経営者およびドッグトレーナーとしての実績と経験をもとにペット業界に必要な人材育成、実習授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

犬への基本的な指示の習得が目標。また正しい犬との接し方やコントロールを学んでいく。
トレーナーとしての立ち振る舞いを学んでいく。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	道具のチェック、授業の流れ（開始前～掃除）
2	実習	基本動作（マテ・スワレ）
3	実習	バイオフィードバックについて
4	実習	アジリティ（ハードル・台）
5	実習	アジリティ（ハードル・台・トンネル）
6	実習	アジリティ（ハードル・台・トンネル・平均台）
7	実習	自分たちでアジリティコースを考え実際に行う
8	実習	ロングリードを使用しての基本動作
9	実習	ロングリードでの長短を練習
10	実習	ロングを用いての遠隔操作
11	実習	実習犬を担当制で行う（自分の目標を考え、実行）
12	実習	実習犬を担当制で行う（犬の目標を考え、実行・個体に合わせたトレーニング）
13	実習	C級ライセンスについて
14	実習	C級ライセンスについて
15	期末考査	前期考査

☐ 到達目標

基本的な犬への指示の習得
安全な犬への接し方

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		動物形態機能学Ⅰ		下島徹子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

株式会社ストーク高島平手塚動物病院勤務15年目の臨床現場での経験を活かして生体と関わることについての講義を行う

☐ 授業科目の概要

スライドを配布、または板書にて自ら手を動かして動物の体の形態機能について学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	骨格	犬の骨格について
2	一般身体検査	犬の一般身体検査について
3	感染	フィラリア、ノミ、マダニについて
4	感覚器	犬の耳と目について
5	感覚器	犬の耳と目について
6	感覚器	犬の皮膚について
7	感覚器	犬の皮膚について
8	感覚器	犬の皮膚について
9	泌尿生殖器	犬の生殖器について
10	泌尿生殖器	犬の泌尿器について
11	泌尿生殖器	犬の泌尿器について
12	消化器	犬の消化器について
13	消化器	犬の消化器について
14	復習	今までの復習
15	期末考査	

☐ 到達目標

動物の形態機能について、トリマー、ドッグトレーナーでも必要な基礎の部分を理解する。

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		愛玩動物飼養管理士Ⅰ		宮崎麗奈		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業を行う。愛玩動物飼養管理士として、動物愛護や人と動物の共生などの活動を担う中心的存在として活躍するために、基本的理解を深めるとともに、専門知識への応用理解へつなげる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	愛玩動物飼養管理士とは	公益社団法人日本愛玩動物協会の目的・事業、愛玩動物管理士 愛玩動物管理士と愛護・適正飼養学、ボランティア活動
2	生命倫理と動物福祉	生命倫理の概念、動物福祉の概念、利用目的により異なる関わり方、愛玩動物の福祉 産業動物、実験動物、展示動物の福祉
3	体の仕組みと働き、繁殖・遺伝	体の基本の仕組み・消化器系、泌尿器系・運動器、皮膚と感覚器 生殖器系の形態機能、犬の繁殖生理、猫の繁殖生理、遺伝学概論
4	動物の行動としつけ1	発達過程と社会行動、学習理論、
5	動物の行動としつけ2	犬のしつけの基本、室内飼育猫のしつけの基本
6	動物愛護・適正飼養関連法規1	動物と法律、愛護適正飼養関連行政法規
7	動物愛護・適正飼養関連法規2	社会福祉行政、環境衛生法規、野生動物等に関する法律および条約
8	愛玩動物学1	動物の管理と飼養管理の関わり合い、歴史と品種、犬猫の飼養管理
9	愛玩動物学2	エキゾチックアニマルの飼養管理
10	愛玩動物学3	栄養と食事、高齢動物
11	人と動物の関係学	人間と動物の関わり、動物と社会問題
12	動物生活環境学1	ペット共生住宅、ペットツーリズム、動物愛護センター
13	動物生活環境学2	訓練、動物介在教育、マナー、リスク対策
14	ペット関連産業	ペット業界、動物取扱制度
15	期末考査	

☐ 到達目標

愛玩動物飼養管理士2級合格

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		猫学Ⅰ		NBA 澤田由紀		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、動物の専門学校を卒業後3年間犬猫が講師として勤務。その後開業し、現在までの30年間生体販売、トリミング、ペットホテルキャットシッターの業務に従事した実績をもとに講義を行う。

授業科目の概要

基本的な“猫”についての知識を身につける

授業の計画

週	項目	授業概要
1	猫とは（歴史・学名）	猫と人との関わり、歴史など
2	猫とは（歴史・学名）	世界の猫の呼び名など
3	猫体名称	体のパーツと名称など
4	体の仕組み	骨格、筋肉、耳、目、鼻
5	体の仕組み	習性など
6	体の仕組み	
7	猫用語	発生スタイル、毛色など
8	猫用語	
9	猫用語	
10	グルーミング	猫のグルーミングについて
11	猫種①	猫種について
12	猫種①	猫種について
13	後期考査対策	前期まとめ
14	後期考査	
15	リフレクション	後期考査解説

到達目標

猫についての基礎を学ぶ

成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	グルーミング概論			石川千恵		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校に教員として25年勤務。現在は専門学校にて講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している経験をもとに授業を行う。

☐ 授業科目の概要

ドッグトレーナーとして必要なグルーミングの基本を実習形式で習得する。

主にペISING(シャンプー、ブロー、爪切り、足裏の毛の処理)と安全な保定技術を学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	道具説明
2	講義	グルーミングの意味と意義 トリミングとは 人形の組み立て スリッカーの使い方
3	講義	シャンプー講義
4	人形シャンプー①	人形を使つてのペISING
5	人形シャンプー②	人形を使つてのペISING
6	実習	モデル犬でのシャンプー実習
7	実習	人形カット カット前処理(顔・四肢・尾)
8	実習	モデル犬でのシャンプー実習
9	実習	人形カット カット(肢まわり・後軀)
10	実習	モデル犬でのシャンプー実習
11	実習	人形カット カット(肢まわり・後軀)
12	実習	モデル犬でのシャンプー実習
13	実習	人形カット カット(後軀～中軀)
14	実習	モデル犬でのシャンプー実習
15	期末考査	期末考査 / 人形カット カット(後軀～中軀)

☐ 到達目標

☐ 成績評価の方法・基準

試験00% 課題00% 出席状況・授業態度00%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	しつけ実習Ⅰ			齊藤 惇		
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	実験・実習・実技			1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

犬への基本的な指示の習得が目標。また正しい犬との接し方やコントロールを学んでいく。
しつけに必要な心構えを学んでいく。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	犬の管理
2	講義	犬舎の出し入れ
3	実習	基本動作（マテ・スワレ）
4	実習	基本動作（左回転・右回転）
5	実習	基本動作（交差）
6	実習	犬と脚測行進
7	実習	アジリティ（ハードル・トンネル）
8	実習	アジリティ（タイヤ・平均台）
9	実習	犬に信頼してもらえるトレーニング実行
10	実習	実習犬を担当制で行うための考察（自分の目標を考え、実行）
11	実習	実習犬を担当制で行うための考察（自分の目標を考え、実行）
12	実習	実習犬を担当制で行うための考察（犬の目標を考え、個体に合わせたトレーニングを実行）
13	実習	実習犬を担当制で行うための考察（犬の目標を考え、個体に合わせたトレーニングを実行）
14	実習	C級ライセンス模擬
15	期末考査	前期考査

☐ 到達目標

基本的な犬への指示の習得
安全な犬への接し方

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング概論Ⅰ		齊藤 惇		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

しつけ実習に向けて、実習犬の性格や癖などを分析。
実習犬1頭1頭に合うしつけを考察していく。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	犬具の扱い方
2	講義	犬との接し方
3	演習	基本動作の講義（マテ・スワレ）
4	演習	基本動作の講義（左回転・右回転）
5	演習	基本動作の講義（交差）
6	講義	犬と脚測行進を行うには
7	講義	アジリティの講義（ハードル・トンネル）
8	講義	アジリティの講義（タイヤ・平均台）
9	講義	犬との信頼関係について
10	講義	実習犬を担当制で行うための考察（自分の目標を考える）
11	演習	実習犬を担当制で行うための考察（自分の目標を考え、実行）
12	講義	実習犬を担当制で行うための考察（犬の目標、個体に合わせたトレーニングを考える）
13	演習	実習犬を担当制で行うための考察（犬の目標を考え、個体に合わせたトレーニングを実行）
14	講義	C級ライセンスについての講義
15	期末考査	前期考査

☐ 到達目標

トレーナーとして犬に信頼してもらう。
人として、トレーナーとして成長。

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	全専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	ホスピタリティⅡ			吉田訓代	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

日本航空客室乗務員での接客経験がある講師が、社会人として必要なビジネスマナー・接客マナーをオンライン講義形式・オンラインロールプレイング形式で実施する。

☐ 授業科目の概要

サービス接客検定2級合格を目標に、面接対策中心に実施する。

11月試験終了後は接客ロールプレイング中心の授業で、アルバイトや今後の仕事につなげられるように接客スキルを身につける。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
2	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
3	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
4	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
5	サービス接客検定対策	サービス接客検定2級過去問演習実施
6	電話応対	電話の基本対応
7	電話応対	電話の応用
8	社会人としてのマナー	仕事の取り組み姿勢 仕事の進め方 報告・連絡・相談のポイント
9	オフィスでのセキュリティマナー	オフィスでのセキュリティマナー SNSの危険性と注意点
10	年末年始マナー	
11	社会人としてのマナー	仕事の取り組み姿勢 仕事の進め方 報告・連絡・相談のポイント
12	社会人としてのマナー	仕事の取り組み姿勢 仕事の進め方 報告・連絡・相談のポイント
13	社会人としてのマナー	仕事の取り組み姿勢 仕事の進め方 報告・連絡・相談のポイント
14	後期考査	筆記試験実施
15	振り返り	

☐ 到達目標

サービス接客検定2級合格

第一印象アップ。愛想の良い接客

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題00% 出席状況・授業態度50%

サービス接客検定2級合格者考査免除

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1 年	ドッグトレーナーコース専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ビジネスコミュニケーションⅡ			CSC		
授業の種類	授業の方法（講義／演習／実験・実習実技／その他（概要記載））			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義			1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

1 年前期「ビジネスコミュニケーションⅠ」の流れを引き継ぎ、業界EXPOの準備を通して就職活動に必要な知識を身につけていきます。

業界EXPO後はリフレクションを通して個人の課題を見つけ、最終的には就職活動を一人でも行える能力を身に付けます。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	意識づけ（就職活動、業界EXPO）	就職活動（社会保険、キャリア形成、準備）、業界EXPO（5つの人間力など）、就職活動スケジュール確認など
2	就職活動のスーツやメイクと就職活動の軸	就職活動を行うためのスーツやメイクについてレクチャーする。後半は学生個人の就職活動の軸について考える
3	書類作成①	志望動機と自己PRの作成手順の説明し、実際に作成してみる
4	書類作成②	前回作成した自己PR（履歴書自己PR欄＝業界EXPO参加票）を添削し、参加票に清書書きを行う
5	業界EXPO準備①	スーツ登校させ事前チェックを行う、参加票の清書書きを行う、企業研究シート作成の説明を行う
6	業界EXPO準備②	企業研究シートの作成、業界EXPOでの質問時のマナーを説明し質問を考える、業界EXPO当日の注意事項などを学生パンフを使い確認していく
7	業界EXPO振り返り	業界EXPOの振り返り（リフレクション）を行い、後半は就職活動マナー（メール、電話、封筒、送り状、お礼状、企業説明会参加のマナーなど）を学ぶ
8	書類作成③	志望動機と自己PR以外の履歴書の書き方をレクチャーする
9	就職活動対策①	エントリーシートの書き方と活動の流れをしっかりと理解する※ペット愛玩は研修注意事項と電話のかけ方
10	就職活動対策②	面接対策①（基本5項目の書き方の説明と作成）
11	就職活動対策③	面接対策②（実践：面接官と受験者を実際に体験してみる）
12	就職活動対策④	グループディスカッション（GD）対策、求人票の見方、今後の就職活動スケジュールの確認など
13	スタログ説明	今年度から導入した就職活動アプリ「スタログ」の使用説明を行う※業者作成の動画
14	期末考査の準備	就職試験でよく聞かれる5項目について考え完成させる
15	期末考査	就職試験基本5項目をそれぞれ指定の字数で書く
16		

☐ 到達目標

就職活動への意識を高め、活動のノウハウを身に付ける。

☐ 成績評価の方法・基準

日頃の授業態度と考査の結果を総合的に評価する。

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		コンピューター演習Ⅱ		日出間隆樹		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		講義・演習	2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

ソフトウェア関連会社でプログラマーおよびシステムエンジニアとしての勤務実績を踏まえ、IT実務者としての観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

Excelの基本操作を習得、サートファイ検定Excel表計算処理技能試験3級取得を目指す。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	Excel①	ワークシートの操作 表の作成 ブックの保存
2	Excel②	表の作成と編集 計算式の入力 関数SUM Average Max Min Count A
3	Excel③	関数Count 相対セルと絶対セル 練習問題
4	Excel④	端数処理 印刷設定
5	Excel⑤	グラフ 棒 折れ線 円
6	Excel⑥	グラフ レーダー 複合 3D
7	Excel⑦	データベース機能
8	Excel⑧	データベース機能
9	Excel⑨	Excel3級答案練習
10	Excel⑩	Excel3級答案練習
11	Excel⑪	Excel3級答案練習
12	Excel⑫	Excel3級答案練習
13	Excel⑬	Excel3級答案練習
14	Excel⑭	後期末試験対策
15	後期考查	

☐ 到達目標

Excel検定 3 級合格

☐ 成績評価の方法・基準

授業内課題の提出、完成度40%

期末試験期間中の実技試験60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		犬種学Ⅱ		NBA		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業をおこなう。講義内容は事前収録し、各学科・クラスのClassroom／Teams等を通して毎週配信し、学生は自宅等で視聴。講義内容は配信後、一定期間再視聴できるように設定され、復習等に活用することができる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	前期振り返り	後期授業説明(6～10グループについて) 6グループ/犬の嗅覚について
2	6グループ	ビーグル/バセット/ダルメシアン
3	7グループ	ワイマラナー/アイリッシュ・セター
4	8グループ	A・コッカー/E・コッカー/E・スプリングー
5	8グループ	ラブラドル・レトリバー/ゴールデン・レトリバー 小テスト(1回～4回振り返り)
6	9グループ	ベキニーズ/バグ/シーズー
7	9グループ	フレンチ・ブルドッグ/チワワ
8	9グループ	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル/パピヨン
9	9グループ	ビション・フリーゼ/マルチーズ
10	9グループ	ブードル
11	10グループ	ボルゾイ/サルーキ
12	10グループ	アフガン・ハウンド/イタリアン・グレーハウンド/ウィペット
13	テスト対策	後期考查対策
14	後期考查	
15	テスト振り返り	後期考查振り返り・解説

☐ 到達目標

第6グループ～第10グループに属する犬種について
沿革と用途を知る

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	トリミング実習ⅠA			石川千恵		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	実験・実習・実技			1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校に教員として25年勤務。現在は専門学校にて講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している経験をもとに授業を行う。

☐ 授業科目の概要

実習形式で授業を行う。モデル犬のシャンパー、ブロー、爪切り、クリッピングなどのベーシングからトリミング器具を使用した部分カットの習得。
また、犬体モデルを使用してトリミング(カット)の技術を学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	小型犬：ベーシング60分、爪切り・足裏バリカン30分 大型犬：ベーシング90～120分、爪切り・足裏バリカン30分
2	人形カット	人形カット 前期復習(振り返り)
3	実習	小型犬：ベーシング60分、爪切り・足裏バリカン30分 大型犬：ベーシング90～120分、爪切り・足裏バリカン30分
4	人形カット	人形カット 前期復習(振り返り)
5	実習	小型犬：ベーシング60分、爪切り・足裏バリカン30分 大型犬：ベーシング90～120分、爪切り・足裏バリカン30分
6	人形カット	人形カット（中軀～前軀）
7	実習	小型犬：ベーシング60分、爪切り・足裏バリカン30分 大型犬：ベーシング90～120分、爪切り・足裏バリカン30分
8	人形カット	人形カット（前軀～バックライン）
9	実習	ベーシングにプラスして部分カット(足回り、お尻・フロントのカット)
10	人形カット	人形カット（顔：クラウン）一周
11	実習	ベーシングにプラスして部分カット(足回り、お尻・フロントのカット)
12	人形カット	人形カット 一周(120分目標)
13	実習	ベーシングにプラスして部分カット(足回り、お尻・フロントのカット)
14	人形カット	人形カット 一周(120分目標)
15	後期考查	人形カット ラムクリップ90分

☐ 到達目標

小型犬～大型犬のグルーミング技術の習得
犬体人形を使用してブードルのカット(ラムクリップ)

☐ 成績評価の方法・基準

人形カットの完成度40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅡA		岩田雄介		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師岩田はドッグトレーナーとしてペットショップ（しつけ、ホテル、トリミング）に6年間勤務後、自身の店を立ち上げ経営者となる。
現役トレーナーとしての実績をもとにペット業界で即戦力となるトレーニング実習を展開する。

□ 授業科目の概要

犬への指示をよりわかりやすく出し、よりステップアップを目指す
表現力を高め、犬に理解してもらう

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	基本動作の確認
2	実習	基本動作の確認・自身の苦手な箇所を修正
3	実習	個体に合わせたトレーニングを考える
4	実習	個体に合わせたトレーニングを実際に行う
5	実習	自身でアジリティのコースを考える
6	実習	前回考えたコースをできる限り少ない合図で行う
7	実習	ロングリードを使用したトレーニング
8	実習	散歩についての授業
9	実習	飼い主対応の授業
10	実習	実習犬の個体に合わせたトレーニングへの目標を決め、実行
11	実習	C級ライセンスの練習
12	実習	実習犬の個体に合わせたトレーニングへの目標を決め、実行
13	実習	担当犬をつけ、個体に合わせて前回よりもステップアップしていく
14	実習	担当犬をつけ、個体に合わせて前回よりもステップアップしていく（ロングリードメイン）
15	期末考査	後期考査

□ 到達目標

C級ライセンス取得

□ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅡB		松浦優		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師松浦は、自身が経営するペットショップでオーナー業だけでなく、ドッグトレーナー兼トリマーとしても6年間勤務。
経営者の観点から、またドッグトレーナーとしての実績と経験をもとにペット業界に必要な人材育成、実習授業をおこなう。

□ 授業科目の概要

犬への指示をよりわかりやすく出し、よりステップアップを目指す
表現力を高め、犬に理解してもらう

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	基本動作の確認
2	実習	基本動作の確認・自身の苦手な箇所を修正
3	実習	個体に合わせたトレーニングを考える
4	実習	個体に合わせたトレーニングを実際に行う
5	実習	自身でアジリティのコースを考える
6	実習	前回考えたコースをできる限り少ない合図で行う
7	実習	ロングリードを使用したトレーニング
8	実習	散歩についての授業
9	実習	C級ライセンスの練習
10	実習	実習犬の個体に合わせたトレーニングへの目標を決め、実行
11	実習	C級ライセンスの練習
12	実習	実習犬の個体に合わせたトレーニングへの目標を決め、実行
13	実習	担当犬をつけ、個体に合わせて前回よりもステップアップしていく
14	実習	担当犬をつけ、個体に合わせて前回よりもステップアップしていく（ロングリードメイン）
15	期末考査	後期考査

□ 到達目標

C級ライセンス取得

□ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		動物形態機能学Ⅱ		下島徹子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

株式会社ストーク高島平手塚動物病院勤務15年目の臨床現場での経験を活かして生体と関わることについての講義を行う

☐ 授業科目の概要

スライドの配布、板書にて自らの手を動かして動物の形態機能について学ぶ

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	復習	前期考査の復習
2	循環器	犬の循環器について
3	循環器	犬の循環器について
4	呼吸器	犬の呼吸器について
5	呼吸器	犬の呼吸器について
6	内分泌	犬の内分泌について
7	内分泌	犬の内分泌について
8	神経系	犬の脳、神経について
9	神経系	犬の脳、神経について
10	神経系	犬の脳、神経について
11	繁殖	犬の繁殖について
12	繁殖	犬の繁殖について
13	復習	今までの復習
14	復習	今までの復習
15	期末考査	

☐ 到達目標

動物の形態機能について、トリマー、ドッグトレーナーでも必要な基礎の部分を理解する。

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		愛玩動物飼養管理士Ⅱ		宮崎麗奈		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業を行う。愛玩動物飼養管理士として、動物愛護や人と動物の共生などの活動を担う中心的存在として活躍するために、基本的理解を深めるとともに、専門知識への応用理解へつなげる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	復習	前期期末考査復習
2	動物愛護・適正飼養関連法規 1	動物と法律、愛護適正飼養関連行政法規
3	動物愛護・適正飼養関連法規 2	社会福祉行政、環境衛生法規、野生動物等に関する法律および条約
4	演習	11/22(日)愛玩飼養管理士2級合格に向けて
5	演習	11/22(日)愛玩飼養管理士2級合格に向けて
6	演習	11/22(日)愛玩飼養管理士2級合格に向けて
7	演習	11/22(日)愛玩飼養管理士2級合格に向けて
8	生命倫理と動物福祉	生命倫理の概念、動物福祉の概念、動物福祉
9	愛玩動物学	栄養と食事、高齢動物
10	動物の行動としつけ1	発達過程と社会行動、学習理論、
11	動物の行動としつけ 2	犬のしつけの基本、室内飼育猫のしつけの基本
12	人と動物の関係学1	人間と動物の関わり
13	人と動物の関係学2	動物と社会問題
14	復習	総復習/期末考査に向けて
15	期末考査	

☐ 到達目標

愛玩動物飼養管理士2級合格

☐ 成績評価の方法・基準

期末考査100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		猫学Ⅱ		NBA 澤田由紀		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、動物の専門学校を卒業後3年間犬猫が講師として勤務。その後開業し、現在までの30年間生体販売、トリミング、ペットホテルキャットシッターの業務に従事した実績をもとに講義を行う。

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業をおこなう。講義内容は事前収録し、各学科・クラスのClassroom／Teams等を通して毎週配信し、学生は自宅等で視聴。講義内容は配信後、一定期間再視聴できるように設定され、復習等に活用することができる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	前期振り返り	猫との暮らしについて
2	管理・飼育方法	完全室内飼育・先住動物との暮らし/猫の生活に必要な用品
3	食事・食性	第2回振り返り(小テスト)/猫の食事・食性/猫に危険な植物
4	食事・食性	ペットフードについて/ペットフード安全法/総合栄養食・間食・療法食/添加物/ペットフードの種類
5	猫の健康管理	第3回・4回振り返り(小テスト)/健康チェック(耳・口腔・外部寄生虫・排泄物)
6	ワクチン・不妊手術	ワクチンについて(時期と必要性・種類・副作用と服反応)/理想のワクチンの打ち方/予防できる病気/不妊(避妊・去勢)手術について(メリットとデメリット)
7	繁殖	猫の繁殖について 交配/交尾/妊娠期間/妊娠中の管理/出産準備/出産・産後の管理
8	グルーミング	ケースグルーミングについて 必要性/猫のカットの種類/皮膚疾患などの予防・治療、外部寄生虫対策/高齢猫のグルーミング
9	猫種について	パーマン/ターキッシュアンゴラ/ターキッシュバン/セルカークレックス/ラパーマ コーニッシュレックス/デボンレックス/ジャパニーズボブテイル/コラット/シンガプーラ/シャルトリュー/エジプシャンマウ/オシキャット
10	猫種について	バーミーズ/ボンベイ/トンキニーズ/オリエンタル(ショート&ロング)/スフィンクス/ハバナ/マンクス/アメリカンワイヤーヘア
11	まとめ①	後期末まとめ/復習
12	まとめ②	後期末まとめ/復習
13	テスト対策	後期考查対策
14	後期考查	
15	テスト振り返り	後期考查振り返り・解説

☐ 到達目標

猫の管理と飼育方法を知る
猫種について学ぶ

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング概論Ⅰ		石川千恵		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校に教員として25年勤務。現在は専門学校にて講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している経験をもとに授業を行う。

□ 授業科目の概要

実習形式で授業を行う。モデル犬のシャンパー、ブロー、爪切り、クリッピングなどのベーシングからトリミング器具を使用した部分カットの習得。また、犬体モデルを使用してトリミング(カット)の技術を学ぶ。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	小型犬：ベーシング60分、爪切り・足裏バリカン30分 大型犬：ベーシング90～120分、爪切り・足裏バリカン30分
2	人形カット	人形カット 前期復習(振り返り)
3	実習	小型犬：ベーシング60分、爪切り・足裏バリカン30分 大型犬：ベーシング90～120分、爪切り・足裏バリカン30分
4	人形カット	人形カット 前期復習(振り返り)
5	実習	小型犬：ベーシング60分、爪切り・足裏バリカン30分 大型犬：ベーシング90～120分、爪切り・足裏バリカン30分
6	人形カット	人形カット（中軀～前軀）
7	実習	小型犬：ベーシング60分、爪切り・足裏バリカン30分 大型犬：ベーシング90～120分、爪切り・足裏バリカン30分
8	人形カット	人形カット（前軀～バックライン）
9	実習	ベーシングにプラスして部分カット(足回り、お尻・フロントのカット)
10	人形カット	人形カット（顔：クラウン）一周
11	実習	ベーシングにプラスして部分カット(足回り、お尻・フロントのカット)
12	人形カット	人形カット 一周(120分目標)
13	実習	ベーシングにプラスして部分カット(足回り、お尻・フロントのカット)
14	人形カット	人形カット 一周(120分目標)
15	後期考查	人形カット ラムクリップ90分

□ 到達目標

小型犬～大型犬のグルーミング技術の習得
犬体人形を使用してブードルのカット(ラムクリップ)

□ 成績評価の方法・基準

人形カットの完成度40％ 出席状況・授業態度60％

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		しつけ実習Ⅱ		齊藤 惇		
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

犬への指示をよりわかりやすく出し、よりステップアップを目指す
表現力を高め、犬に理解してもらう

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	基本動作の確認
2	実習	基本動作の確認・自身の苦手な箇所を修正
3	実習	個体に合わせた目標を考え、実行
4	実習	個体に合わせた目標を考え、実行
5	実習	レベルを上げた指示を出す
6	実習	考えたアジリティコースを実際に行う
7	実習	ロングリードを使用したトレーニング
8	実習	C級ライセンスの練習
9	実習	C級ライセンスの練習
10	実習	実習犬の個体に合わせたトレーニングへの目標を決め、実行
11	実習	実習犬の個体に合わせたトレーニングへの目標を決め、実行
12	実習	担当犬をつけ、個体に合わせて前回よりもステップアップしていく
13	実習	担当犬をつけ、個体に合わせて前回よりもステップアップしていく（ロングリードメイン）
14	実習	C級ライセンス模擬
15	期末考査	後期考査

☐ 到達目標

C級ライセンス取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験 40% 出席率・授業態度 60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	1年	ドッグトレーナーコース		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	トレーニング概論Ⅱ			齊藤 惇		
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

犬にわかりやすい指示、できる犬にはよりレベルの上げた指示を考える。

犬の性格や自分の性格と相性などが合うのか考察する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	演習	基本動作の確認
2	講義	トリーツの扱い方
3	講義	犬への指示を考える
4	演習	アジリティ
5	講義	指示のレベルアップとは
6	講義	安全なアジリティのコースを考える
7	演習	ロングリードを使用したトレーニング
8	講義	散歩について
9	講義	飼い主対応について
10	演習	C級ライセンス練習
11	演習	C級ライセンス練習 苦手箇所修正
12	演習	ノーリードを意識したトレーニング
13	演習	担当制とし1頭のトレーニングを追求①
14	演習	担当制とし1頭のトレーニングを追求②
15	期末考査	後期考査

☐ 到達目標

C級ライセンス取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験 40% 出席率・授業態度 60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ペット栄養学Ⅰ		亀子美穂		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はエンゼル動物病院看護師長であり、動物看護師歴9年以上のキャリアと愛玩動物看護師国家資格取得者である。勤務先の動物病院で栄養学等の院内セミナーを行い、スタッフの指導、育成を行っている。以上の実績を踏まえ、動物看護師の実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

動物の健康維持に必要な栄養学を学び、各栄養素の働きや必要量について理解する。
併せて、成長段階や健康状態に応じて適切な栄養管の基本を身につける。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	五大栄養素	炭水化物
2	五大栄養素	蛋白質
3	五大栄養素	脂質
4	五大栄養素	ビタミン
5	五大栄養素	ミネラル、水分
6	消化と吸収	消化と吸収について
7	エネルギー要求量	エネルギー要求量とカロリー計算について
8	与えてはいけない食物	犬や猫に与えてはいけない食物
9	ペットフード	ペットフードとは
10	食性と嗜好	犬と猫の食性と嗜好性の違い
11	ライフステージ別の食時管理	ライフステージ別の食事管理の仕方
12	手作りフード	手作りフードのメリットとデメリット
13	肥満動物の栄養管理	肥満動物の栄養管理と療法食
14	消化器疾患の栄養管理	消化器疾患の栄養管理と療法食
15	試験	

☐ 到達目標

動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を理解し、説明できる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験100% 課題00% 出席状況・授業態度00%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	ビジネスコミュニケーションⅢ		キャリアサポートセンター			
授業の種類	授業の方法（講義／演習／実験・実習実技／その他（概要記載））		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	その他（就職関連）		1	2×15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週	

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

1年後期からの準備を踏まえて、実際に就職活動を行っていく。学生一人一人が現在の自分の就職活動状況に合わせ活動を行い、個別の面談も並行して行っていく。時には企業を呼び説明会を行うなど、就職決定に向けた実践的な授業を行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業内容
1	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
2	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
3	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
4	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
5	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
6	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
7	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
8	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
9	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
10	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
11	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
12	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
13	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
14	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
15	就職対策講義	講義をしながら就職対策を実践的にしていく。企業に来ていただき説明をしていただく。
16		

☐ 到達目標

就職決定を到達目標とする

☐ 成績評価の方法・基準

試験00% 課題00% 出席状況・授業態度100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ペット経営学		NBA佐野		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

トリミングの専門学校を卒業後、トリミングサロンに勤務し、トリミング業務の他ホテル管理や販売業務などに従事。さらに海外のトリミングサロンにトリマーとして勤務。現在は名古屋ビジネス・アカデミーにて、職員として20年勤務。これまでの実績と経験をもとに授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

経営者を目指していない人でも、身近に感じる内容にして、これから働く職場で求められる事や経営者がどんな事を考えて経営しているのか考えさせる。自分がオーナーになって自分の店を考えてみる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	経営者と店長と従業員の仕事	経営者と店長と従業員の違いや仕事内容を知る。今後、働く先で上司や先輩がどんな事を考えて仕事をしているかを学ぶ。
2	集客について	集客を増やすことによって売上をあげる方法を学ぶ。
3	マーケティング	マーケティングの4P・SWOT分析・基本概念・歴史を学ぶ。
4	店の特徴を整理する	特徴を知るSWOT分析をさらに詳しく掘り下げる。特徴を伝える方法のUSPを学ぶ。
5	効果のある集客活動	潜在顧客からファン客にさせるためのアプローチ方法。離反防止と休眠顧客の掘り起こし。
6	消費者行動	消費者の立場で考え、消費者行動に影響する要因を理解する。AIDMAモデル。
7	集客ツール	お店をアピールするためのツールの中で、HP、チラシ、DMやその他の特徴や方法を学ぶ。
8	陳列・レイアウト	効果的な陳列やレイアウトを知り、購買力を上げる方法を学ぶ。
9	売上と利益	集客活動の数値目標の立て方。売上方程式、売上管理などを学ぶ。
10	コストを理解する	コスト管理、固定費や変動費、また損益分岐点などの算出方法を学ぶ。
11	開業～テナント編①～	テナントを借りて開業をする手順、その中で何が必要かを学ぶ。
12	開業～テナント編②～	テナントを借りて開業をする手順、その中で何が必要かを学ぶ。
13	開業～自宅編～	自宅開業をする手順、その中で何が必要かを学ぶ。
14	前期考査	
15	振り返り	前期考査解説

☐ 到達目標

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅢA		越森雄也		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当職員の越森はドッグトレーナーとして、ほいくえん（トレーニング）で5年間勤務。
現在は愛犬とディスクドッグで10年間競技を続け、学外のトレーニング法を合わせ実習授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

犬への指示のステップアップを計る。犬を通じて、犬のコントロールの上達を意識する。
また、飼い主に見せられるトレーニングの意識づけ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	基本動作見直し（マテ、スワレ、左右回転、交差、ゆっくり）
2	実習	革リードの扱い方復習
3	実習	犬への指示のステップアップ
4	実習	自分の苦手な部分を見出し修正
5	実習	ノーリードを意識したトレーニング
6	実習	安全なアジリティのコース組み立て、実際に行う
7	実習	前回組み立てたコースをノーリードを意識して行う
8	実習	ロングリードの扱い
9	実習	自分でトレーニングを組み立てる（問題行動に対する対処）
10	実習	自分でトレーニングを組み立てる（指示のレベルアップ意識）
11	実習	自分でトレーニングを組み立てる（個体に応じたトレーニング）
12	実習	B級ライセンスに向けて（初回）
13	実習	B級ライセンスに向けて
14	実習	B級ライセンスに向けて（模擬・録画）
15	期末考査	前期考査

☐ 到達目標

B級ライセンス意識づけ

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅢB		岩田雄介		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師岩田はドッグトレーナーとしてペットショップ（しつけ、ホテル、トリミング）に6年間勤務後、自身の店を立ち上げ経営者となる。
現役トレーナーとしての実績をもとにペット業界で即戦力となるトレーニング実習を展開する。

☐ 授業科目の概要

犬への指示のステップアップを計る。犬を通じて、犬のコントロールの上達を意識する。
また、飼い主に見せられるトレーニングの意識づけ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	リード、チョーク、姿勢、声符、視符の基本見直し
2	実習	担当制で個体に合ったトレーニングを考え実行する
3	実習	アジリティー（中山・シーソー・スラローム）
4	実習	脚側行進、自由ビデオ録画
5	実習	脚側行進、自由の確認
6	実習	ノーリードを意識したトレ
7	実習	自分でトレーニングを組み立てる（問題行動に対する対処）
8	実習	自分でトレーニングを組み立てる（指示のレベルアップ意識）
9	実習	自分でトレーニングを組み立てる（個体に応じたトレーニング）
10	実習	安全なアジリティのコースを組み立て、実際に行う
11	実習	前回組み立てたコースをノーリードを意識して行う
12	実習	B級ライセンスに向けて（ビデオ録画・修正）
13	実習	B級ライセンスに向けて（ビデオ録画・修正）
14	実習	B級ライセンスに向けて
15	期末考査	前期考査

☐ 到達目標

B級ライセンス意識づけ

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅡA		石川千恵		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校教員として25年勤務。現在は講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している。その実績と経験をもとに授業を行う。

□ 授業科目の概要

人形を使用してシザーリング、カットの形・点を理解する。
プードルのラムクリップとベアカットを学ぶ。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	人形カット	1年次振り返り(人形カット)
2	実習	グルーミングの基本作業の見直し、弱点強化
3	実習	グルーミングの基本作業の見直し、弱点強化
4	人形カット	苦手箇所の確認/足回り～後躯 ④後躯
5	実習	時間の意識(小型犬(グルーミング犬種)のペISING90分)
6	実習	時間の意識(小型犬(グルーミング犬種)のペISING90分)
7	人形カット	中躯～前躯/前躯～顔(ラム)/犬体モデルを使用したリボン付け(セットペーパーの使い方)
8	実習	時間の意識(小型犬(グルーミング犬種)のペISING90分)
9	実習	自分の苦手箇所の振り返りと克服
10	人形カット	一周 ※2枚目の毛使用/ベアの顔カット ※お座りわんちゃん使用
11	実習	自分の苦手箇所の振り返りと克服
12	実習	自分の苦手箇所の振り返りと克服
13	人形カット	一周 ※2枚目の毛使用/ベアの顔カット ※お座りわんちゃん使用
14	実習	前期考查対策
15	前期考查	人形カット(ラムクリップ) 120分

□ 到達目標

安全なシザーリング技術修得

□ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅡB		林幹子/鶴見菜月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。
講師鶴見は、5年間アニマルクラブでトリマー、ペットシッター、ホテル管理に従事した経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

□ 授業科目の概要

基本的なグルーミングの技術と知識を実際の犬で学ぶ。鋏を使用した部分カット(足回り、フロント、お尻周りのカット、ヒゲ)
ドッグトレーナーとして最低限必要な犬のグルーミング技術・知識の習得

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	1年振り返り(ペISING)
2	実習	各作業の確認
3	実習	グルーミングの基本作業の見直し、弱点強化
4	実習	グルーミングの基本作業の見直し、弱点強化
5	実習	グルーミングの基本作業の見直し、弱点強化
6	実習	グルーミングの基本作業の見直し、弱点強化
7	実習	時間の意識(小型犬(グルーミング犬種)のペISING90分)
8	実習	時間の意識(小型犬(グルーミング犬種)のペISING90分)
9	実習	時間の意識(小型犬(グルーミング犬種)のペISING90分)
10	実習	時間の意識(小型犬(グルーミング犬種)のペISING90分)
11	実習	時間の意識(小型犬(グルーミング犬種)のペISING90分)
12	実習	自分の苦手箇所の振り返りと克服
13	実習	自分の苦手箇所の振り返りと克服
14	実習	自分の苦手箇所の振り返りと克服
15	前期考查	前期考查

□ 到達目標

トリマーライセンスベーシック取得を目指す

□ 成績評価の方法・基準

試験・課題・出席状況・授業態度を総合的に評価する。

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅢC		松浦優		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師松浦は、ペットショップ経営者として、またドッグトレーナー兼トリマーとして6年間勤務。
経営者の観点から、またドッグトレーナーとしての実績と経験をもとにペット業界に必要な人材育成、実習授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

犬への指示のステップアップを計る。犬を通じて、犬のコントロールの上達を意識する。
また、飼い主に見せられるトレーニングの意識づけ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	基本動作・アジリティー(復習)
2	実習	担当制を取り入れ自分自身の目標設定を行う
3	実習	犬への指示のレベルアップを意識したトレーニング
4	実習	ロングリードを使用して自由を与えたトレーニング
5	実習	ノーリードを意識したトレ
6	実習	ノーリードを意識したトレ
7	実習	脚側行進、自由ビデオ録画、確認
8	実習	自分でトレーニングを組み立てる（問題行動に対する対処）
9	実習	自分でトレーニングを組み立てる（指示のレベルアップ意識）
10	実習	自分でトレーニングを組み立てる（個体に応じたトレーニング）
11	実習	B級ライセンスに向けて
12	実習	B級ライセンスに向けて（前回の復習）
13	実習	B級ライセンスに向けて（前回の修正）
14	実習	B級ライセンス模擬
15	期末考査	前期考査

☐ 到達目標

B級ライセンスの意識づけ

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		看護基礎学Ⅲ		梅田真理子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
選択授業		講義・演習		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は獣医師として複数の動物病院で10年以上勤務し、小動物臨床に携わってきた。また複数の専門学校で講師として14年勤務し、動物看護に関する授業を担当してきた。以上の実績を踏まえ、動物看護の実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

看護基礎学Ⅰ・Ⅱで学習した内容をふまえ、ズーノーシスや動物の福祉、愛玩動物以外の動物現状や関連放棄・法律について学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	ズーノーシス①	身近なズーノーシスを学ぶ意義
2	ズーノーシス②	噛まれたり、引っ搔かれることにろり感染するズーノーシス
3	ズーノーシス③	日常生活に関係の深いズーノーシス
4	ズーノーシス④	食中毒を引き起こすズーノーシス、マダニ媒介性ズーノーシス
5	ズーノーシス⑤	ズーノーシスの一般的な予防法、その他の代表的なズーノーシス
6	イヌ・ネコの繁殖管理①	イヌ・ネコの繁殖生理の違い（発情周期、性成熟）
7	イヌ・ネコの繁殖管理②	イヌ・ネコの妊娠・出産（正常分娩、帝王切開）、周産期の母体と新生児の管理について
8	幼齢動物の飼養管理	初乳の必要性、人工哺乳、成長に適した飼育ケア、排泄援助
9	老齢動物の飼養管理	加齢に伴うさまざまな変化、認知障害、徘徊、夜泣き、環境整備と介護グッズについて
10	エキゾチックアニマルの飼養管理	小型げっ歯類の習性適正飼育方法、主な病気など
11	産業動物と実験動物	社会的役割、動物の福祉（5つの自由、3R原則）、問題点の現状
12	野生動物と展示動物	種類、動物福祉における問題点、外来生物における現状
13	テスト試験対策	テスト対策を行います
14	前期試験	オンラインで行います
15	前期振り返り	テストの解答・解説、動物福祉・人間動物関係学について

☐ 到達目標

卒業後、社会人として仕事上出会イヌ・ネコの健康と命を預かる覚悟の持てる人材になる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験80% 出席状況・授業態度20%
試験60点以上合格

2026年度	前期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ドッグトレーナー論Ⅰ		越森雄也		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当職員の越森はドッグトレーナーとして、ほいくえん（トレーニング）で5年間勤務。
現在は愛犬とディスクドッグで10年間競技を続け、学外のトレーニング法を合わせ実習授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

トレーナーとして犬を扱うにおける考え方を学ぶ
トレーナーとしての立ち振る舞いや知識の向上

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	昨年度1年間の見直しとこれからの目標
2	講義	ドッグトレーニングの理論
3	講義	トリーツを用いたトレーニングについて①
4	講義	トリーツを用いたトレーニングについて②
5	講義	クリックートレーニングについて
6	講義	散歩について
7	講義	パピートレーニングについて①
8	講義	パピートレーニングについて②
9	講義	飼い主への伝え方について
10	講義	ショップやトレーニング施設について
11	講義	おもちゃを用いたトレーニングについて
12	講義	パートナードッグについて
13	講義	トレーナーとして必要な事
14	講義	犬種問題
15	講義	前期考査

☐ 到達目標

トレーナーとして必要となる考え方や知識の向上

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ペット栄養学Ⅱ		亀子美穂		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はエンゼル動物病院看護師長であり、動物看護師歴9年以上のキャリアと愛玩動物看護師国家資格取得者である。勤務先の動物病院で栄養学等の院内セミナーを行い、スタッフの指導、育成を行っている。以上の実績を踏まえ、動物看護師の実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

犬猫の健康維持や美容、行動に関わる職種に必要な応用的栄養知識を学ぶ。疾患別の食事管理を中心に、皮膚・被毛・筋肉・行動など、日常ケアや飼い主対応に役立つ栄養学を理解する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	前期の総復習	前期の復習
2	皮膚疾患	皮膚疾患の栄養管理
3	腎臓病	腎臓病の栄養管理
4	糖尿病	糖尿病の栄養管理
5	心臓病	心臓病の栄養管理
6	下部尿路疾患	下部尿路疾患の栄養管理
7	関節疾患	関節疾患の栄養管理
8	口腔内疾患	口腔内疾患の栄養管理
9	栄養サポートと給餌	給餌姿勢、食欲低下時の工夫
10	サプリメントと機能性栄養	関節・皮膚・腸内環境・ストレス軽減サプリの基礎知識
11	皮膚・被毛の健康と栄養	皮膚・被毛と脂肪酸・ビタミンの関係
12	筋肉・運動と栄養	筋肉維持・エネルギー代謝・水分補給の重要性
13	高齢動物の栄養管理	老化に伴う変化、関節や認知機能への配慮、食べやすさの工夫
14	飼い主の対応とまとめ	飼い主への食事相談・伝え方、疾患別の要点総復習
15	期末試験	

☐ 到達目標

犬猫の健康状態や疾患に応じて適切な栄養管理の考え方を説明でき、現場で飼い主にアドバイスできる基礎応用力を身につける。

☐ 成績評価の方法・基準

試験100% 課題00% 出席状況・授業態度00%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		エキゾチックアニマル		NBA坂下		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		1	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、動物の専門学校卒業後、動物看護師として5年間動物病院に勤務。その後、5年間、名古屋ビジネス・アカデミー教員として愛玩動物看護学科を担当する。その実績と経験をもとに授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

オンデマンド配信による講義形式で授業をおこなう。講義内容は事前収録し、各学科・クラスのClassroom／Teams等を通して毎週配信し、学生は自宅等で視聴。講義内容は配信後、一定期間再視聴できるように設定され、復習等に活用することができる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	エキゾチックアニマルについて	エキゾチックアニマルの歴史と現状、問題点について学ぶ
2	ウサギ①	ウサギの形体機能、適正飼養について
3	ウサギ②	ウサギの各種疾患、予防方法について
4	ハムスター①	ハムスターの形体機能、適正飼養について
5	ハムスター②	ハムスターの各種疾患、予防方法について
6	モルモット①	モルモットの形体機能、適正飼養について
7	モルモット②	モルモットの各種疾患、予防方法について
8	フェレット①	フェレットの形体機能、適正飼養について
9	フェレット②	フェレットの各種疾患、予防方法について
10	鳥類①	鳥類の形体機能、適正飼養について
11	鳥類②	鳥類の各種疾患、予防方法について
12	チンチラ	チンチラの形体機能、適正飼養、各種疾患、予防方法について
13	テスト対策	テスト対策プリント
14	後期考査	
15	振り返り	テスト復習・解説

☐ 到達目標

エキゾチックアニマルの形体機能、適正飼養
各種疾患と予防方法について理解する

☐ 成績評価の方法・基準

試験100%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅣA		越森雄也		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当職員の越森はドッグトレーナーとして、ほいくえん（トレーニング）で5年間勤務。
現在は愛犬とディスクドッグで10年間競技を続け、学外のトレーニング法を合わせ実習授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

飼い主様が犬を適切にコントロールできるように、その方法を身に付ける犬の性質や性格を理解し、個々にあったトレーニング方法を自身で考え、組み立てる。
ノーリードを意識したトレーニングを行う、犬との信頼関係を築く

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	リード、チョーク、姿勢、犬への指示の基本見直し
2	実習	自分の動きを録画 第三者の見え方確認
3	実習	指示のレベルアップ
4	実習	ノーリードでのトレーニングを目標
5	実習	アジリティメインでのトレーニング
6	実習	アジリティメインでのトレーニング（ノーリードメイン）
7	実習	自分でトレーニングを組み立てる（問題行動に対する対処）
8	実習	自分でトレーニングを組み立てる（指示のレベルアップを意識）
9	実習	自分でトレーニングを組み立てる（個体に応じたトレーニング）
10	実習	B級ライセンスを意識したトレーニング①
11	実習	B級ライセンスを意識したトレーニング②
12	実習	B級ライセンス苦手箇所修正
13	実習	B級ライセンス模擬試験①
14	実習	B級ライセンス模擬試験②
15	期末考査	後期考査

☐ 到達目標

B級ライセンス取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習ⅣB		岩田雄介		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師岩田はドッグトレーナーとしてペットショップ（しつけ、ホテル、トリミング）に6年間勤務後、自身の店を立ち上げ経営者となる。
現役トレーナーとしての実績をもとにペット業界で即戦力となるトレーニング実習を展開する。

☐ 授業科目の概要

飼い主様が犬を適切にコントロールできるように、その方法を身に付ける。犬の性質や性格を理解し、個々にあったトレーニング方法を自身で考え、組み立てる。
ノーリードを意識したトレーニングを行う、犬との信頼関係を築く

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	個体に合わせたトレーニングについて①
2	実習	飼い主対応トレーニング①
3	実習	賞賛、叱責のメリハリ、タイミング
4	実習	ノーリードでのトレーニングを目標
5	実習	ご褒美を使用したトレーニング
6	実習	個体に合わせたトレーニングについて②
7	実習	自分でトレーニングを組み立てる（問題行動に対する対処）
8	実習	自分でトレーニングを組み立てる（指示のレベルアップを意識）
9	実習	自分でトレーニングを組み立てる（個体に応じたトレーニング）
10	実習	B級ライセンスを意識したトレーニング①
11	実習	B級ライセンスを意識したトレーニング②
12	実習	飼い主対応トレーニング②
13	実習	B級ライセンス模擬試験①
14	実習	B級ライセンス模擬試験②
15	期末考査	後期考査

☐ 到達目標

B級ライセンス取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トレーニング実習IVC		松浦優		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師松浦は、自身が経営するペットショップでオーナー業だけでなく、ドッグトレーナー兼トリマーとしても6年間勤務。
経営者の観点から、またドッグトレーナーとしての実績と経験をもとにペット業界に必要な人材育成、実習授業をおこなう。

☐ 授業科目の概要

飼い主様が犬を適切にコントロールできるように、その方法を身に付ける犬の性質や性格を理解し、個々にあったトレーニング方法を自身で考え、組み立てる。
ノーリードを意識したトレーニングを行う、犬との信頼関係を築く

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	基本動作の見直しを行う
2	実習	ロングリードをメインにトレーニングを行う
3	実習	指示のレベルアップ
4	実習	ノーリードでのトレーニングを目標
5	実習	ご褒美を使用したトレーニング
6	実習	ロングリードを使用したトレーニング
7	実習	自分でトレーニングを組み立てる（問題行動に対する対処）
8	実習	自分でトレーニングを組み立てる（指示のレベルアップを意識）
9	実習	自分でトレーニングを組み立てる（個体に応じたトレーニング）
10	実習	B級ライセンスを意識したトレーニング①
11	実習	B級ライセンスを意識したトレーニング②
12	実習	B級ライセンス苦手箇所修正
13	実習	B級ライセンス模擬試験①
14	実習	B級ライセンス模擬試験②
15	期末考査	後期考査

☐ 到達目標

B級ライセンス取得

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅢA		石川千恵		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師石川は、動物の専門学校を卒業後、専門学校教員として25年勤務。現在は講師として犬のトリミングを教えるかたわら自身のトリミングサロンでトリミングに従事している。その実績と経験をもとに授業を行う。

授業科目の概要

実習形式で犬のトリミングを繰り返しおこなう。1年次に習得したグルーミング技術に加え、コントロールが難しい犬の保定方法を学ぶ。足回り、フロント、お尻などの部分的なカット技術の習得、適切な道具の扱い方を学ぶ。

授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
2	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
3	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
4	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
5	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
6	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
7	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
8	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
9	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
10	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
11	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
12	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
13	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
14	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、ポイントカット(トリミング)技術の習得
15	後期末考査	

到達目標

小型犬のトリミングを一人で対応できる。
トリミング器具を安全に使用し、部分的なカットができる。

成績評価の方法・基準

出席状況・授業態度40％ トリミング技術40％
授業準備(受け渡し・清掃)20％

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		トリミング実習ⅢB		林幹子/鶴見菜月		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		実験・実習・実技		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

講師林は、トリマーとして10年以上トリミングサロンに勤務した実績と、現役で都内トリミングサロンで働くトリマーとしての観点から実習をおこなう。
講師鶴見は、5年間アニマルクラブでトリマー、ペットシッター、ホテル管理に従事した経験と実績をもとに実習授業をおこなう。

授業科目の概要

実習形式で犬のトリミングを繰り返しおこなう。1年次に習得したグルーミング技術に加え、コントロールが難しい犬の保定方法を学ぶ。
足回り、フロント、お尻などの部分的なカット技術の習得、適切な道具の扱い方を学ぶ。

授業の計画

週	項目	授業概要
1	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、部分的なカット(トリミング)技術の習得
2	実習	人形カット
3	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、部分的なカット(トリミング)技術の習得
4	実習	人形カット
5	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、部分的なカット(トリミング)技術の習得
6	実習	人形カット
7	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、部分的なカット(トリミング)技術の習得
8	実習	人形カット
9	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、部分的なカット(トリミング)技術の習得
10	実習	人形カット
11	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、部分的なカット(トリミング)技術の習得
12	実習	人形カット
13	実習	小型1人1頭 大型2人1頭 計測、部分的なカット(トリミング)技術の習得
14	実習	人形カット
15	後期末考査	

到達目標

小型犬のトリミングを一人で対応できる。
ウィッグを使用してトイプードル(ラムクラブ)のカット技術修得

成績評価の方法・基準

出席状況・授業態度40% トリミング技術40%
授業準備(受け渡し・清掃)20%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		ドッグトレーナー論Ⅱ		越森雄也		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕	単位数	時限×回数	備考	
基本授業		実験・実習・実技	2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当職員の越森はドッグトレーナーとして、ほいくえん（トレーニング）で5年間勤務。
現在は愛犬とディスクドッグで10年間競技を続け、学外のトレーニング法を合わせ実習授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

トレーナーとして犬を扱うにおける考え方を学ぶ
トレーナーとしての立ち振る舞いや知識の向上

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	講義	前期考査の復習
2	講義	環境の違いによるトレーニングについて①
3	講義	環境の違いによるトレーニングについて②
4	講義	飼い犬の問題行動に対する相談①
5	講義	飼い犬の問題行動に対する相談②
6	講義	飼い犬の問題行動に対する相談③
7	講義	飼い犬の問題行動に対する相談④
8	講義	トリーツを用いたトレーニングについて①
9	講義	トリーツを用いたトレーニングについて②
10	講義	飼い主への伝え方について
11	講義	犬との相性について
12	講義	犬に合わせたトレーニングについて①
13	講義	犬に合わせたトレーニングについて②
14	講義	犬に合わせたトレーニングについて③
15	講義	後期考査

☐ 到達目標

トレーナーとして必要となる考え方や知識の向上

☐ 成績評価の方法・基準

試験40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	後期	ペットビジネス学科	2年	ドッグトレーナーコース		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		看護基礎学Ⅳ		梅田真理子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
選択授業		講義・演習		2	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2025年度生まで：【単位数】「講義・演習」「実験・実習・実技」とも1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は獣医師として複数の動物病院で10年程度勤務し小動物臨床に携わってきた。また複数の専門学校で講師として14年勤務し、動物看護に関する授業を担当してきた。以上の実績を踏まえ、動物看護の実務者の観点から講義を行う。

☐ 授業科目の概要

オンデマンド形式で講義をおこなう。

看護基礎学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの総まとめとして犬猫の健康管理全般を理解し実践力を養う

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	各種動物の基礎知識①	産業動物の福祉・実験動物の福祉
2	各種動物の基礎知識②	展示動物・野生動物の福祉
3	動物の福祉・人間動物関係学	5つの自由・HAB
4	動物看護における課題	職業倫理・QOL・インフォームドコンセント
5	幼齢動物・高齢動物の飼育管理	パピー、社会化期の重要性、加齢に伴う変化、老犬介護
6	エキゾチックアニマルの飼養管理	一般的なエキゾチックアニマルの生態、適正飼育方法
7	応急処置	1年次に学んだ動物の怪我や体調不良に対する応急処置の総復習
8	感染症とその予防	1年次に学んだ主な感染症についての総復習
9	身近なズーノーシス	1年次に学んだズーノーシス（人獣共通感染症）の総復習
10	繁殖の管理	交配から出産、出産後の管理、遺伝性疾患
11	日常の健康管理	1年次に学んだ健康管理について、飼い主さまへの指導に重点を置き学ぶ
12	食事の管理	1年次に学んだ食事の管理について、飼い主さまへの指導に重点を置き学ぶ
13	動物行動学	動物の行動の機能、動物の系統発生、行動のメカニズム、行動の個体発生について学ぶ
14	後期試験	
15	後期試験ふりかえり	期末考査の解説

☐ 到達目標

卒業後、自信をもって動物の状態確認ができるようになること
飼い主の心に寄り添った的確なアドバイスができるようになること

☐ 成績評価の方法・基準

試験80% 出席状況・授業態度20%
試験60点以上合格